

# Bulletin

交通 ● ブリテン

ISSN 1349-9610

2023年  
年報号

61

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION SYSTEMS ENGINEERING • COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY • NIHON UNIVERSITY



巻頭言：藤井敬宏

## 退職に当たって

### Contents

- 2 巻頭言：藤井敬宏
- 3 令和5年度 研究室紹介
- 6 TOPICS 新任教員の紹介
- 7 TOPICS 交通システム工学科配置図
- 8 令和4年度  
博士論文・修士論文・卒業研究
- 12 令和4年度 教員の研究・活動  
(2022.4.1～2023.3.31)
- 30 令和4年度 学生の受賞等  
(2022.4.1～2023.3.31)
- 31 教室の動き
- 35 令和4年度 就職状況
- 36 COLUMN
- 36 編集後記

表紙写真は、交通システム工学科写真コンテストの写真です。  
撮影者：小林蒼汰さん



## 巻頭言 退職に当たって

教授 藤井敬宏

昭和51年交通工学科へ入学、交通コンサルタントの技術者となる夢を持ち大学院へ進学、学生として6年、その後、自身の進む場として研究・教育を選択して41年、私の人生の約7割を船橋キャンパスで過ごしてきた。

入学当初を思い返すと、

- ① **入学前の下見** 北習志野駅（新京成線）から住宅団地を抜け、正門（今の西門）に到着。植樹の数も少なく、見渡せるキャンパスの中の建物は、抜けてきた住宅団地と何ら変わらない。守衛さんに「日大理工のキャンパスで間違いなにか？」と確認したことを覚えている。
- ② **体育の授業** 約600mの交通総合試験路（当時は軽飛行機の滑走路を兼ねる）を走らされる。住宅も薬学部も建っていない、吹きさらしでのランニング。自宅で洗髪すると土色の水、あの色は忘れられない。砂塵が舞う習志野原。今の西門側の住宅は、日中でも雨戸を閉ざし、洗濯物も外干し不可。そんな環境下のキャンパスだった。
- ③ **通学** 浪人するつもりで借りたアパートは元住吉。東横線-日比谷線-丸の内線と繋ぎ東京駅まで。そして総武快速線で津田沼、新京成線で北習志野へ。徒歩を含め約2時間、今では東葉高速線を利用し1時間20分。時間距離を一気に縮める時間短縮効果の恩恵を肌で感じる交通機関の整備だった。

など、あれから約2分の1世紀、変われば変わるもの。良いか悪いかは別にして、私自身も変われば変わったものだと思う。

20歳の誕生日、「病弱で病院通いが欠かせず、20歳まで育つか不安の子だった。親の責任は今日で果たせたから、後は自分でしっかり生きて」と北海道の両親から祝いの電話。当時、この身長で62kg。痩せこけ、神経質で几帳面、どちらかといえば「石橋を叩いて、誰かが安全に渡った後を確認してから渡る」、そんな性格だった。

しかしその時から、私の気持ちや考え方が微妙に変化。「失うことの不安より、好きなことに取り組んだ先の喜び」を大事にしよう、そんな前向きな考え方に变化。なるようにしかならない人生であれば自分の選択を信じ、「たれば」という言葉で振り返るような考えがなくなった。その結果、今では当時の体重から約30kg増量。直近のストレスチェックの偏差値平均は67。とくに満足度と元気度は71と72という、20歳の自分とはまったく別人のようだ。

なぜか？ 自信を持って言えることは、「交通」に関わるこ

とができたからだと思う。学生の授業評価のコメントに、「交通総論と都市計画を講義している先生は、見ていてとても楽しそう」というものがあつた。居酒屋の注文で「喜んで！」と返されると、頼んだ方も気持ちが良いし、良いものを出してくれるような気もする。勉強でも仕事でも、この「喜んで！」という気持ちひとつで、どんなに大変なことであっても心持ちは大きく変わる。私はそう思っている。自分自身が楽しむこと、楽しむように興味のアンテナを伸ばすこと、楽しむために勉強でも遊びでも手を抜かないこと、そして周りの人とその思いを共有できれば、こんなに楽しいことはない。

最終年度では、「しずおかShowCASEプロジェクト」で国際関係学部の三島駅北口校舎に自動運転の遠隔コントロールセンターを設置し、2台を1人でモニタリングするなどの実証実験を行った。これは、令和4年3月に開催された静岡県の未来創造まちづくり構想会議にて、将来的にウーヴンシティまで直結する自動運転車の導入基地として情報発信できるハブ拠点を提案。理工学部長から国際関係学部長への協力要請により学部連携のプロジェクトとして実現。さらに地元自治体の三島市、裾野市、長泉町ともタッグを組んだ座談会の開催。産学官で関わる方々との共通の思いを醸成させる中で、プロジェクトの枠組みがどんどん深化。実証実験中には、本学の理事長や学長、理事の皆様も見学。そして、次年度に向けた実証実験の提案と、研究ベースで産官学連携のプロジェクトにステップアップさせる段階まで発展。新たなモビリティを創造する取り組みで「未来へ繋ぐ」、そんな楽しみが急激に拡大する1年だった。

このような取り組みができるのも、「人と物と情報」を扱う交通が、人との交流、暮らし方や歴史観や地域・地勢、新たな技術等が多様化し、かつ高度化する社会の中で、どう生きていくか、その潤滑剤として力を発揮できる学際的な学問分野でもあるからだ。私自身は極めるまでには至らなかったが、その一端を十分に楽しむことはできた。大きな満足感を持って退職できる。

若い皆さん、それぞれが抱く「交通の姿」をデザインし、そして楽しむ、そして社会に貢献できる実感を得て、勉強・研究そして実務に関わることができるのも、交通の良い所。ますますのご活躍を期待し、祈念する。

人生100年、私もできるだけ健康寿命を延ばし、実社会での交通をもっともっと楽しんでいこうと思っている。本当に長い間お世話になりました。ありがとうございます。

## 令和5年度 研究室紹介

744号室

### 運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 教授  
吉岡慶祐 助教



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージ」することを目標として研究を進めています。

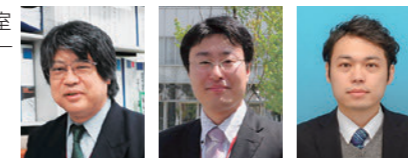
キーワードは「交通まちづくり」「インターモーダルリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。'まち'は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモーダルリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶などの陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモーダルリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、



秋田県で導入を進めている自動運転車両 リモートによる研究室懇話会

### 交通システム 研究室

福田 敦 教授  
石坂哲宏 准教授  
菊池浩紀 助教



交通システム研究室では、さまざまな交通問題に対してシステム工学的アプローチから取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。例えば、交通安全対策の実施による交通事故の削減、BRT、地下鉄、新幹線などの軌道系交通機関の導入、公共交通軸を中心としたコンパクトな都市形態の実現、都市災害に対する適応策の導入などがCO<sub>2</sub>排出量の削減や経済効果の増加にどの程度寄与するか検証しています。また、車両に搭載されているプローブ情報システムやカーナビなどから移動体情報を取得することで交通状態を推計する手法の開発を行っています。これらのデータに基づいてマイクロ交通流シミュレーションモデルの開発しており、例えば、交通情報を提供することでマルチモーダルを推進する方法など、さまざまな施策の評価に適用しています。

これらのモデルやシステムの開発は、各国の大学あるいは政府関係機関など共同研究という形で進めています。近年では、タイのカセサート大学、スラナリー工科大学、インドのインド工科大学ハイデラバード校、フィリピンのデ・ラサール

政策、理論、技法などについてフィールド調査や交通分析などを実施しながら研究を進めます。加えて、交通現象の理論や調査・分析をベースとした道路の計画・設計に関する研究も行っています。

#### ●卒業研究テーマ

- ・UAMの社会受容性に関する研究
- ・公共交通（航空、鉄道、バスなど）の交通行動分析
- ・マーケティング施策による公共交通活性化分析
- ・地方ローカル線（いすみ鉄道等）を活かした地域交通計画
- ・自動運転車両の公共交通への導入検討
- ・交差点の計画・運用に関する研究

#### ●ゼミナール・テーマ

- ・地方創生政策アイデアコンテストに応募
- ・交通計画分野に関する文献レビュー（英論文含む）
- ・就活に向けた実力アップ（SPI、TOEICなど試験対策）

#### ●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として「交通需要予測」「空港・港湾工学」「交通事業論」「地域計画」履修すること。TOP資格を取得。これまでの卒論・修論の概要やゼミ旅行などのイベント、学会発表参加などの研究室活動実績はホームページを参照してください。(pubtrplan.trpt.cst.nihon-u.ac.jp)

739号室

ル大学、ザビエル大学、オーストリアのウィーン工科大学などと共同で研究を進めています。また、卒研究生や大学院生が現地の学生と協力して、オンラインでの研究ミーティングの実施や調査なども行っています。

#### ●卒業研究テーマ（一部）

- ・都市鉄道事業における運営方法の分析
- ・都市鉄道駅周辺における歩行環境の評価
- ・15-minute cityの概念に基づいた都市コンパクト化の効果の分析
- ・都市洪水発生時における活動変化の分析
- ・深層学習と交通ビッグデータによる交通状態推定
- ・交通シミュレーションに基づく交通マネジメント施策の評価

#### ●ゼミナール・テーマ

小グループごとに対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程や現地調査を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・シミュレーションモデルを活用した計画案の分析方法を学習する。グループワークでは、交通問題の解決に向けた議論を行い、発表及び講評会を行う。

#### ●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決にかかわる職業に就くことを希望している者。交通需要予測、国際コミュニケーション論、国際開発援助論、多変量解析、情報通信システムの受講を推奨する。研究室に関する詳しい情報はホームページを参照。



## 交通環境 研究室

伊東英幸 教授



交通環境研究室では、交通にかかわるさまざまな環境問題に取り組んでおり、環境との共生を目指した交通計画の立案や評価ならびに交通環境の改善に向けた研究を進めています。具体的には、エゾシカやアマミノクロウサギ、ヤンバルクイナなどを対象として野生生物と自動車の事故発生要因の分析および対策効果の検証や、電気自動車による住民の送迎システム導入やグリーンズローモビリティ導入による移動サービスの向上およびCO<sub>2</sub>排出量の削減効果の推計、リニア中央新幹線の環境アセスメントの評価、奄美大島におけるオーバーツーリズムを踏まえた観光行動の分析などを行っています。令和4年度のゼミナールは、大学院生2名、卒研17名、3年ゼミ生19名の総勢38名が在籍し、ゼミナールや卒業研究中間発表会を年2回実施しました。

## ●卒業研究テーマ（一部）

- ・奄美大島におけるアマミノクロウサギのロードキル多発区間の分析
- ・自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの道路への飛び出し防止効果の分析
- ・フェンス設置によるエゾシカの事故対策効果の推計

- ・中山間地域における電気自動車を用いた住民送迎システム導入によるCO<sub>2</sub>削減量の推計
- ・富里市日吉台へのグリーンズローモビリティ導入によるCO<sub>2</sub>削減量の推計
- ・奄美大島におけるゾーントラベルコスト法によるコロナ禍前後のレクリエーション価値の比較分析
- ・パークアンドバスライドによる成田国際空港アクセスバス導入に向けた検討
- ・横芝光町を対象としたコロナ禍前後におけるデマンドタクシーの利用実態分析



富里市へのプレゼンテーション

## ●ゼミナール・テーマ（令和4年度実施内容）

- ① 研究紹介
  - ・研究室で取り組んでいる研究内容の紹介
- ② 社会貢献型学習（自治体との協働によるグループワーク）
  - ・市原市市民大学講座（シニアのための交通支援）に参加
  - ・富里市の新デマンド交通のロゴと停留所のデザイン作成
  - ・横芝光町の公共交通マップの作成
- ③ 就職&進路指導
  - ・インターンシップに向けた就職&進路セミナー
  - ・卒業生による業務内容の紹介

## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通にかかわるさまざまな環境問題に関心を持ち、交通環境問題の解決に向けて高い意欲があること。

## 空間情報 研究室

佐田達典 教授



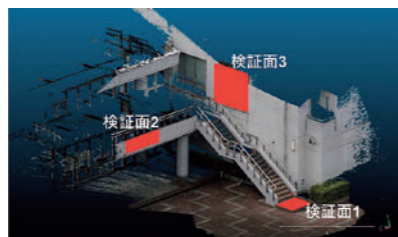
江守 央 准教授

空間情報研究室では、衛星測位システム（GNSS）、レーザ計測技術、写真計測技術（SfM）をベースに、先端的なセンサを利用して位置や形状を計測・解析・可視化する研究を行い、3次元地図整備、交通施設整備、移動時の情報提供への応用を目指しています。

GNSSは米国のGPS、わが国の準天頂衛星QZSSをはじめ世界各国のシステムを用いた高精度測位実験による評価を行っています。車両にGNSSとレーザ計測装置を搭載して道路空間の形状を走行しながら計測するモバイルマッピングシステム（MMS）を用いて自動走行のための3次元道路情報や歩行者の移動円滑化に向けた歩道のバリア情報の抽出や情報提供などの応用技術を研究しています。バーチャルリアリティ（VR）技術によるサインの評価にも取り組んでいます。



UAVによる計測実験



卒業研究用にSfMで作成した測量実習センターの点群データ



MMSの構成

令和4年度は、大学院生8名、卒研16名、ゼミナール生18名の総勢42名が在籍し活動しました。

## ●卒業研究テーマ（令和4年度）

- ① 建物壁面からの距離に応じたGNSS測位の精度検証
- ② QZSSのセンチメートル級測位補強サービスの研究
- ③ LiDAR-SLAMによる自己位置推定の研究
- ④ MMSによる路面計測データのノイズ除去と標定補正
- ⑤ 深層学習を用いた8K画像からの路面ひびわれ検出
- ⑥ モバイル搭載端末LiDARの計測に照度が及ぼす影響
- ⑦ カメラの撮影環境や設定がSfMによる点群生成に与える影響
- ⑧ 草地を対象としたUAV写真測量における地面抽出精度
- ⑨ VRとHMDによる仮想空間内でのサイン視認実験
- ⑩ 駅周辺地区の新たな交通モードの提案と街路デザイン

## ●ゼミナール・テーマ

GNSS、交通バリアフリーについて専門書の輪講を行います。また、VR等の空間情報技術を用いたワークショップ、GNSS解析ソフトウェアの演習を行い、専門的知識を高めます。

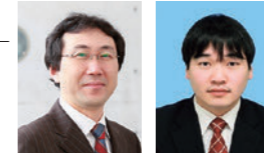
## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

特にありません。新技術や社会貢献に興味のある方を歓迎します。卒研、ゼミ受入可能コース：両教員ともに両コース受入可

## 交通計画 研究室

小早川 悟 教授

積田典泰 助手



交通計画研究室では、「地区交通計画」と「都市交通管理」を柱として研究を行っています。具体的には、自動車のトリップエンドとしての駐車をどのようにコントロールしていくか、都市における物流や貨物車の問題をどのように解決していくか、自転車や二輪車の利用や走行に関する研究、交通安全対策に関する研究、災害発生を考慮した都市交通計画の検討などを進めています。さらに、卒業研究中間発表会や研究室懇親会では、研究室の卒業生の先輩方にも参加していただき、研究内容や就職活動に関するさまざまな意見交換を行っています。

## ●卒業研究テーマ

- ① 駐車施設の運用に関する研究
  - これまでのような普通乗用車用の駐車スペースの供給量を増やすことを主眼においた駐車政策から、既存の駐車スペースを有効活用するための駐車場の隔地・集約化に関する研究や、貨物自動車や自動二輪車用の駐車スペースを確保するための研究に取り組んでいます。また、駐車場の出入口の安全性に関する研究も行っています。
- ② 物流システムに関する研究
  - 物流効率化のための施策として建物内共同配送に関す

る研究や、貨物車対策のためにビッグデータを活用し貨物車の動きを把握する研究を行っています。

- ③ 交通安全に関する研究
  - 道路形状からみた交通事故対策の考え方や生活道路における交通安全対策に関する研究を行っています。さらに、無信号横断歩道における車両のゆずりを促進させる社会実験にも取り組んでいます。
- ④ 自転車交通に関する研究
  - 自転車通行空間整備のための自転車通行実態調査を実施することで、どのような形態の道路空間整備が自転車や歩行者さらには自動車にとって望ましいかを道路種別や交差点形態別に分析を行っています。
- ⑤ 災害時を考慮した都市交通計画に関する研究
  - 災害時における支援助物資輸送のための道路交通計画に関する研究や東日本大震災時の交通信号機の被害状況を調査し早期復旧のための資機材のストック方法の検討を行っています。

## ●ゼミナール・テーマ

- ・『交通技術必携』の輪読および発表
- ・「これからの交通工学」や「研究活動の進め方」等の講義
- ・交通対策の現場見学会
- ・交差点解析の基礎演習
- ・卒業研究に向けた研究レビューの演習

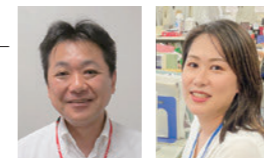
## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

ロジスティクス概論を受講すること。

## 道路マネジメント 研究室

下川澄雄 教授

青山恵里 助手



人口減少、少子高齢化社会が直面するなかで、今後ともくらし豊かな生活、効率的な都市機能を維持していくためには、中山間地域から大都市に至るまで、「コンパクト」+「ネットワーク」により、新たな活力の集積を図り、それらが重層的に重なる国土の形成を図る必要があります。

道路マネジメント研究室は、これらを実現すべく、道路を中心とする交通インフラの計画・設計から維持管理に至るプロセスの中で、今日的な課題や社会的な要請を抽出・整理し、新たな制度設計を提案していくことを研究の柱としています。そのため、研究の対象は、①道路ネットワークのあり方、②道路のサービス水準と道路の新たな計画設計論、③車両性能や交通特性と道路の構造との関わりなど、道路の機能・特性に関わる基礎的な研究から施策立案に関する実務的な応用研究といった広い領域を含むものです。

なお、本研究室では、他大学との合同ゼミ合宿をはじめとして外部との交流も盛んに行っています。

## ●卒業研究テーマ

- ・道路の機能・階層を踏まえたサービス水準のあり方に関する研究
- ・将来の拠点配置や交通特性を踏まえた道路ネットワークや道路空間の再編に関する研究

- ・高速道路渋滞時の交通挙動と交通運用策に関する研究
- ・信号交差点での交通挙動と交通状態量に関する研究
- ・性能照査型の道路計画設計論など

## ●ゼミナール・テーマ

小グループごとによるフィールドスタディを通じ、道路交通問題とその解決策を実践的に習得することを狙いとしています。また、グループディスカッションを通じ、思考力や論理的説明能力の向上を目指します。令和4年度は、浜名湖周辺を対象フィールドとして、老朽化が問題となっている跨線橋が撤去された際の周辺への交通の影響を、ビデオ調査や交通容量の解析に基づいて予測し、改善策を議論しました。また、その成果をレポートとしてまとめました。

## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通流理論、道路工学、交通現象解析を履修または履修予定であること。



他大学との合同ゼミ合宿



階層型道路ネットワークの形成

## 鉄道構造 研究室

谷口 望 教授  
齊藤 準平 准教授  
関口 穂 助手

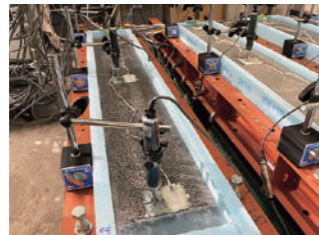


当研究室では、公共交通を支えるために重要となる交通基盤（鉄道構造物や道路構造物）を対象として、さまざまな活動や研究を行っています。交通基盤の新たな建設、膨大な数の交通基盤の機能維持など、交通基盤を取り巻く諸問題は多く、その解決を目指したテーマを設定し研究に取り組んでいます。

研究活動では、積極的に成果を公表することとし、学協会の発表会やシンポジウムに投稿します。ゼミナール活動では、学生向け橋梁コンペティションへの参加のための製作、コンクリートカヌー大会に出場するためのカヌー作製などを通じて、習得した知識を活かすことやモノづくりの楽しさを経験します。



JR工事現場見学会の様子（2022.11）



ポラスコンクリート版の異常反り解明実験

## ●卒業研究テーマ（令和4年度）

谷口教授

- ・鉄道技術を活用しサステナビリティを向上させた道路用合成桁の開発
- ・i-constructionに適合した構造物の設計手法の開発
- ・BWIMを活用した橋梁の維持管理手法検討
- ・各種鉄道構造物に対する合理的設計法に関する研究

齊藤准教授

- ・圧縮応力の継続付与によるコンクリートの塩分浸透抵抗性の解明
- ・3次元X線CTによるコンクリートの内部空隙構造の調査
- ・効率的な道路橋点検を目指した健全性診断結果と環境・気象条件との関係分析
- ・ポーラスコンクリート版の反り現象のメカニズムの解明

## ●ゼミナール活動

- ・ジャパンスチールブリッジコンペティション（JSBC）用の橋梁の設計、製作（谷口）
- ・コンクリート・モルタルを用いたカヌーの作製「コンクリートカヌー大会に出場！」（齊藤）
- ・自由研究、課外活動（現場見学会、工場見学会、施工体験会など）

## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

材料・構造に関する科目の履修を推奨する（卒研と同時に履修可）。

## TOPICS 新任教員の紹介



## 青山恵里 助手

この度、日本大学理工学部交通システム工学科の助手に着任させていただき青山恵里です。本大学大学院博士後期課程を修了後、本学科にて助手を経験し、その後、国土技術政策総合研究所で研究官としての経験を経て、再び本学科にてお世話になることとなりました。

前職では、目標旅行速度を達成するための道路構造要件を示すことを目指した研究や、道路整備の効果をより的確に表現するための評価方法の検討等に携わりました。これらに取り組む中で、コンサルタント会社に就職した本学科卒業生と一緒に車両挙動を取得するための調査をする機会がありました。その卒業生は学生時代に同じ研究室に所属し、卒業研究の中で車両挙動調査を行っており、学生時代の経験を活かして活躍していました。大学で勉強・研究している時にはあまり感じないかもしれませんが、本学科で学んだこと、経験したことは、社会に出てから必要性を実感すると思います。

本学科の皆さまが在学中、そして卒業後も活躍できるよう、これまでの経験を活かして精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

本学科の皆さまが在学中、そして卒業後も活躍できるよう、これまでの経験を活かして精進してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



## 積田典泰 助手

この度、日本大学理工学部交通システム工学科の助手に着任させていただきことになりました積田典泰です。私は日本大学理工学部交通システム工学科を卒業後、同大学大学院理工学研究科博士前期課程を修了し、その後、同博士後期課程に進学、2023年3月に修了し、本年度の4月より本学科にてお世話になることとなりました。

在学中は、東南アジア諸国における都市洪水に対する適応策の評価に関する研究に取り組んできました。皆さんもご存じのように、地球温暖化を起因とする異常気象によって開発途上国の都市でも日本と同様に、都市洪水が頻発し、甚大な被害が発生しています。この状況に対応するために、私の研究では、都市洪水時におけるアクティビティに与える影響を詳細に把握した上で、分野横断的な適応策の導入による効果を分析しています。

今年度が社会人1年目であり、未熟者ではありますが、皆さんのお役に立てるように努力したいと思います。よろしくお願いたします。

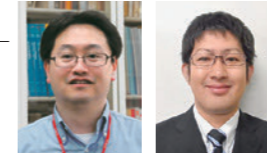
今年度が社会人1年目であり、未熟者ではありますが、皆さんのお役に立てるように努力したいと思います。よろしくお願いたします。



検討した適応策の導入例

## 地盤工学 研究室

峯岸邦夫 教授  
山中光一 准教授



研究室構成は、大学院博士後期課程1名、前期課程1名、卒研生13名、ゼミナール生16名の合計31名で、教員は峯岸教授、山中助教の2名体制で研究・教育を進めました。

当研究室では、交通施設（鉄道、道路、空港、港湾など）に関連する施設）の設計・建設に関わる地盤の力学的問題や新材料・新技術の開発、地盤構造物の維持管理に関わる諸問題について研究を行っています。

卒業研究では、継続研究の舗装用に強化されたジオテキスタイル（土木用不織布）の耐久性および通水性能、ジオシン



小型FWDを用いた現場試験

室内CBR試験

セティックスを立体的に組み立てて地盤内に敷設をするジオセルの力学特性の把握ほかに、補強盛土工法の維持管理に関する研究等を行いました。これらの成果

は、(公社)地盤工学会関東支部発表会や(公社)土木学会関東支部技術研究発表会において発表を行っています。

学生の動きとしては、例年、地盤工学会関東支部主催のソイルストラクチャーコンテスト（与えられた地盤材料を用いて構造物を作製し、強度等を競うコンテスト）に学部生が参加し、日頃の研究や勉強成果を活かしています。

また、昨今の状況のため開催が延期になっていますが、地盤工学を研究する学生や研究者が集まり懇親を深める三上杯バレーボール大会と関東大学地盤研究室対抗ソフトボール大会に研究室全員で参加し、他大学の学生や他研究機関の研究者達との情報交換、懇親を深めています。

## ●卒業研究テーマ

- ① 舗装用強化ジオシンセティックスの耐久性および排水性評価
- ② 軽量化地盤材料による埋設物への土圧低減特性
- ③ 乱された関東ロームの力学特性
- ④ 路床・路盤の弾性係数に関する研究
- ⑤ ブロック系舗装に関する研究

## ●ゼミナール・テーマ

- ① 交通地盤工学（交通施設の地盤工学）とは？
- ② 大地震・集中豪雨等による地盤災害とその対策技術
- ③ 地盤構造物への新素材・新材料の利用技術
- ④ 路床・路盤の性能評価に関する研究
- ⑤ フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

## ●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究は地盤力学Ⅰ、Ⅱと地盤材料実験を履修（同時履修可）。

## TOPICS 交通システム工学科配置図

4F	道路マネジメント 演習室 745B室	道路マネジメント研究室 下川 教授 青山 助手 745A室 内線5503	運輸交通計画研究室 轟 教授 吉岡 助教 744室 内線5219	運輸交通計画演習室 743B室	
3F	交通システム研究室 福田 教授 石坂 准教授 菊池 助教 739室 内線5355	交通環境研究室 伊東 教授 738室 内線6476	交通環境演習室 737室	交通システム演習室 735室	
2F	交通システム工学科 事務室 熊田・高梨 7214室 内線5239	交通システム工学輪講室 7213室	空間情報研究室 佐田 教授 江守 准教授 7212室 内線8147	交通計画研究室 小早川 教授 積田 助手 7211室 内線5242	交通現象解析室 7210室
1F	鉄道構造研究室 谷口 教授 関口 助手 7111室 内線5240	(鉄道構造研究室・演習室) 齊藤 准教授 7110室 内線5241	空間情報演習室 719室	交通まちづくり工房 (地盤工学演習室) 718室	地盤工学研究室 峯岸 教授 山中 准教授 717室 内線5217

- 2号館：舗装・地盤系実験室（201、202）……………内線5418
- 7号館：コンクリート・構造系実験室（704）……………内線5236
- 社会基盤工学系実験 建設材料系……………内線5216
- 地盤・舗装材料系……………内線5584
- 測量実習センター……………内線5322
- 駿河台校舎タワースコラ6階：交通システム工学科共通研究室(S611室)……………内線976

ダイヤルイン 03-3259-0976

ダイヤルイン 047-469-(内線番号)

事務室 FAX：047-469-2581

## 令和4年度 博士論文・修士論文・卒業研究

### 博士論文

東南アジア諸国での都市洪水に対する適応策の評価に関する研究  
—主に洪水発生時のアクティビティの変化に着目して—  
主査：福田 敦 教授 積田典泰

### 修士論文

歩行者・自転車との交錯が生じる信号交差点における左折車の通過確率に関する研究  
指導：下川澄雄 教授 石井和成

周囲を建物や樹木で囲われた箇所におけるGNSS測位のGalileoのE5信号の効果に関する研究  
指導：佐田達典 教授 入倉 望

GNSS測位における都市街路の模型を活用したシミュレーション実験によるマルチパス波検出の実証研究  
指導：佐田達典 教授 大手駿平

都心部への通過交通の流入抑制機能を果たすための環状道路の道路交通条件に関する研究  
指導：下川澄雄 教授 友廣大成

地域鉄道におけるBluetooth LEを用いた利用状況の推定手法に関する研究  
指導：轟 朝幸 教授 三木田龍一

屋内構造物を対象としたUAVを用いたフォトグラメトリにおける形状計測精度向上のための計測条件  
指導：江守 央 准教授 峰岸 樹

### 卒業研究

■ **運輸交通計画研究室** (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)  
地域鉄道での目的別ODから見る現状と過去の利用状況との比較—いすみ鉄道を対象として— 井上直紀

鉄道代替交通に対する沿線自治体の意向に基づくクロスセクター効果の算出—いすみ鉄道を対象として— 岸田悠史

運休の実例を用いたクロスセクター効果の算出に関する研究—くま川鉄道を対象として— 齋藤慶次

地域鉄道における災害運休時の代替交通手段に関する実態調査—小湊鉄道を対象として— 中野 鷹

タブレット端末とARを用いた橋梁劣化検査における2Dマーカの色の組み合わせとその使用条件に関する研究  
指導：江守 央 准教授 宮阪浩平

マイクロ交通シミュレーションを用いた洪水発生時のプローブ情報提供による交通適正化の評価に関する研究  
—タイ・ウボンラチャタニ市を対象として—  
指導：福田 敦 教授 宮村幸我

妊婦および子育て世帯の移動支援を図るデマンド型交通の運用改善策の検討  
指導：藤井敬宏 教授 矢嶋太気

MMSにより計測したトンネルの3次元点群に輪郭抽出手法を適用した損傷部の自動検知に関する研究  
指導：佐田達典 教授 山下翔雅

QZSSが提供するセンチメートル級測位補強サービスの移動測位性能に関する研究  
指導：佐田達典 教授 山田 真

車両の譲りを促すための電光表示や閃光を用いた無信号横断施設に関する研究  
指導：小早川 悟 教授 吉村暢洋

【 】は共同論文指導  
高等学校生徒の地域鉄道に対する存続・支援意思に対して影響する要因についての分析—いすみ鉄道を対象として— 羽鳥俊太郎

電動キックボードシェアリングサービス利用者・非利用者の違いに着目した利用要因に関する分析 大川和真

COVID-19拡大期における行動制限による交通事故発生状況変化に関する分析 桐生智哉

リンクアンドプレイス理論に基づく街路分類基準策定に関する基礎的分析—自由が丘駅周辺を対象に— 佐藤 洸

私用中における小学生の性別・学年別乱横断事故の特徴に関する分析 横溝純平

米国における高速VTOL導入による航空交通手段の選択確率の推定 植田翔太郎

成田国際空港における災害時のアクセス道路に関する実態分析 渡邊論史

日本の既存空港のスペースポート併用化に向けた適地選定条件に関する研究 梅澤幸生

日本を起点とする超音速旅客機の利用選択に関する研究 齊藤由将

■ **交通システム研究室** (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授)  
ウボンラチャタニにおける洪水の発生による交通行動と活動パターンの変化の分析 荒井流矢

タイにおけるラウンドアバウトの課題点の把握と改善案の提案—スラナリー工科大学内のラウンドアバウトを対象として— 荒川翔吾

本線とHOVの違いを考慮したMacroscopic Fundamental Diagramの短期時間予測—米国加州のフリーウェイを対象にLSTMを用いて— 稲村慎二郎

タイ・ナコンラチャシマの幹線道路を対象としたUターン挙動における衝突危険性の評価 小林龍来

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が都市部における人々の行動へ与えた影響の分析 佐藤嘉紀

フィリピン・メトロセブの橋の通行料金設定による混雑緩和の評価 首藤雄大

インド・アーメダバードでのマルチモーダルアプリケーションによる二酸化炭素排出量の削減効果 末武望美

都市鉄道の価格弾力性の推計—ハノイメトロ2A号線を対象として— 田邊 翼

日本の地方都市におけるコンパクトシティの実現可能性の評価—15-minute cityの概念に着目して— 西村知訓

共助と公助を想定した水害時の自動車避難に関するシミュレーション 原 智基

バンコク都市鉄道駅周辺の歩行空間の評価 久松和真

冠水道路への進入防止対策に関する基礎的な検討 山崎雅斗

日本の小学校における交通安全教育の実態分析 吉川 青

タイにおける二輪車運転者の安全意識の分析 若林雅也

アクセシビリティ指標を用いた洪水対策の効果の推計—タイのウボンラチャタニ市を対象として— 渡邊和樹

■ **交通環境研究室** (藤井敬宏 教授・伊東英幸 教授) ……  
学校教育の場における心のバリアフリーの取り組みと今後の課題—千葉県我孫子市を対象として— 清水圭二

バリアフリーワークショップ参加者と就労障がい者の移動困難状況の検討—千葉県千葉市都心地区を対象として— 三原大輝

静岡県裾野市岩波駅周辺地区まちづくり基本計画の推進を図るために導入された住民ワークショップの妥当性の検討 江幡拓希、外島太一

下田市旧町におけるウォークアブルな歩行者通路の社会実験に向けた候補リンクの検討—時空間暴露量を用いた検討— 山崎友也

東京都東久留米市の子育て世帯を対象としたデマンド型交通の利用促進策の検討—「くるぶー」の非利用者を対象として— 長谷川 優

地域交通利用券利用者の利用意向に基づいたデマンドタクシーの導入台数の検討—千葉県匝瑳市を対象として— 森本侑生

コミュニティバスの路線再編計画における住民の受容性の検討—千葉県市川市の梨丸号を対象として— 石橋慶貴

静岡県三島市のコミュニティバスを対象とした地域サポーター制度の導入検討 山本悠太

P&BRによる成田国際空港アクセスバス導入に向けた検討—千葉県富里市を対象として— 宿谷 陸

横芝光町を対象としたコロナ禍前後におけるデマンドタクシーの利用実態分析 塚越涼也

中山間地域における電気自動車を用いた住民送迎システム導入によるCO<sub>2</sub>削減量の推計—福島県三島町を対象として— 飯沼裕貴

富里市日吉台へのグリーンスローモビリティ導入によるCO<sub>2</sub>削減量の推計 佐藤航希

奄美大島を対象としたゾーントラベルコスト法によるコロナ禍前後のレクリエーション価値の比較分析 浅見亮佑

奄美大島におけるアマミノクロウサギのロードキル多発区間の分析 大森涼太

自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの道路への飛び出し防止効果の分析—沖縄県道2号線を対象として— 笠木一樹	松戸駅周辺地区の新たな交通モードの提案と街路デザイン 伊藤遼太郎
フェンス設置によるエゾシカの事故対策効果の推計—北海道国道44号を対象として— 小川慎之亮	■ <b>交通計画研究室</b> (小早川 悟 教授) ……………
■ <b>空間情報研究室</b> (佐田達典 教授・江守 央 准教授) …	自動運転車の混在が駐車場出入口における交通流の円滑性に与える影響分析 加藤 裕
QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける自動車走行速度に着目した精度検証 飯塚洗貴	路外駐車場出入口における左折入庫車両と追従車両の追突危険性に関する研究 上敷領志仁嗣
QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける歩行者の挙動に着目した精度検証 金子伊織	出入口構造の違いに着目した右折入庫車両の走行位置の分析 長澤知直
VRS測位における建物壁面とアンテナ間の距離が測位解に与える影響に関する研究 石井隆一	料金変動による駐車場の集約の可能性に関する研究 福地雄大
LiDAR-SLAMとRTK-GNSSの自己位置推定の精度比較 今澤辰哉	隔地先の配置が小規模駐車施設の集約に与える影響 長塚裕也
位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSでの計測時にノイズが発生する素材条件と入射角度に関する研究 加藤創大	宿泊施設における物流発生量に関する基礎的研究 楯木智也
MMSにより計測したコンクリート構造物の点群データから教師なし機械学習を用いて損傷を自動検知する手法の研究 荒井和成	無信号横断歩道における警告表示板による車両の譲りの変化に関する分析—東京都中央区新川の無信号横断歩道を対象として— 川上晋平
ノイズ除去および標定点補正を用いたMMSによる滑走路を想定した路面形状計測に関する研究 水江郁崇	発光による注意喚起を用いた無信号横断歩道における車両の譲りに関する分析—宮城県仙台市の無信号横断歩道を事例に— 望月楓華
深層学習を用いた路面ひび割れの検出における8K画像の有用性に関する研究 三宅康平	横断歩行者の移動経路と沿道構造に着目した無信号横断歩道における乱横断の実態に関する研究 日吉遥紀
MMSの点群データとの合成におけるモバイル端末とSfMの精度比較 中川光平	千葉県の小学生の交通事故発生状況の分析—千葉県船橋市を対象として— 生沼一樹
モバイル端末搭載LiDARによる計測データに照度が及ぼす影響に関する研究 中條智貴	交差点におけるボラード設置が自転車の通行に及ぼす影響分析 鎌田雄大
一眼カメラの露出設定がSfMを用いた3次元点群生成に与える影響に関する研究 桐谷航平	撮影方法の違いによる生活道路におけるAI画像解析システムの精度分析 岡本悠希
草地を対象としたUAV写真測量における地面抽出精度に関する研究 小林政己	■ <b>道路マネジメント研究室</b> (下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教)
対象物の素材が点群を用いたSTLデータ作成の精度及び可触化に与える影響 梶原正義	大型トラックの走行が高速道路の交通状態に及ぼす影響分析 鳥丸恵雅
モバイル端末搭載LiDARを用いた3Dモデルにおける映像表現の有用性の検討 中村友紀	高速道路の自由流時においてサービスの質を説明する指標の提案 岩崎颯人
VR及びHMDを活用した駅構内におけるサインの発見率に関する実験 倉林伶次	高速道路リニューアルプロジェクトによる工事規制にともなう交通状態に関する分析 山田純也
	ETC機器の生存確率にもとづく最適点検間隔のシミュレーション分析 掛上寛希【桑原雅夫】

強化学習を用いた信号現示最適化に関する研究 山崎颯太【桑原雅夫】	アングル材を用いた構造物の耐荷性能に関する検討 浅田俊己
観光道路を対象とした信号交差点の直進車線における飽和交通流率の分析 福田健介	鉄道用合成桁の構造目地による影響検討 小山隼人
歩行者と自転車に対する左折車のギャップアクセプタンス挙動の分析 本郷雄大	リベット接合部の残留応力が耐荷性能に及ぼす影響 峰嶋甲貴
信号交差点の右左折混用車線における飽和交通流率の分析 櫻井颯人	3次元有限要素解析を用いた立坑構造物に関する設計検討 佐々木浩也
無信号交差点の交通容量推定方法に関する日米独中の比較検証 張 錦汐	3Dレーザースキャナで計測された点群データを活用する際の交通視認状況 新澤未遊
踏切の停止線を通過する車両の車頭時間と飽和交通流率の分析 本間裕洋	斜角を有する鋼鉄道橋の設計に関する検討 菅野允陽
走りやすさに着目した環状道路の流入抑制機能を果たすための要因分析 湯田彩月	■ <b>地盤工学研究室</b> (峯岸邦夫 教授・山中光一 助教) ……
走行実験による電動キックボード・自動車並走時の走行評価 吉川純平	盛土の排水材として用いるジオコンポジットの最適な敷設間隔の検討 木村竜也
国土数値情報にもとづく環状交差点の立地特性実態分析 竹井 良	模型地盤を用いた補強土壁の壁面挙動に及ぼす給水高さ経過時間の影響 源 航太
■ <b>鉄道構造研究室</b> (谷口 望 教授・齊藤準平 准教授) …	軟弱路床に用いる表面強化不織布の耐久性に及ぼす構成条件と敷設方法の影響 上野智史
弾性限度を超える圧縮応力が付与されたコンクリートの見かけの拡散係数 藤田真大、松崎大喜	フィルター層として用いた表面強化不織布の耐久性に及ぼす目付誤差の影響 根岸彪雅
53年間使用した南砂町駅の軌道部側壁から採たコアを用いた塩害に関する研究 班 鈞豪、吉岡悠生	ジオセル補強路盤の応力分散角に及ぼすセル高さの影響 高井誠人
ポーラスコンクリート舗装のそり現象に関する研究 高島大誠	文献調査による短繊維混合補強土の力学特性 關口尚人
構造形式の違いに着目した健全性診断結果と環境・気象・交通状況の関係分析 高橋悠馬	溶融スラグを混合した石灰安定処理土の支持力特性に及ぼす溶融スラグ添加量の影響 小森義久
簡易橋梁デザインソフトの力学教育への導入に関する研究 山本賢吾	ジオポリマーを用いた火山灰質粘性土の地盤改良における強度特性の考察 伊藤凜太郎
柔ジベルを用いた不完全合成桁の耐荷性能に関する検討(正曲げ編) 野原真樹	文献調査による火山灰質粘性土の一軸圧縮強さとCBRの関係 石川雄太郎
柔ジベルを用いた不完全合成桁の耐荷性能に関する検討(負曲げ編) 古屋裕太	地盤密度を考慮したK30値とKP.FWD値の係数に及ぼす載荷板直径の影響 中嶋悠太
活荷重応答に着目したBWIMによる道路橋維持管理手法の検討(PC橋編) 田中寛昌	
活荷重応答に着目したBWIMによる道路橋維持管理手法の検討(鋼橋編) 山田竜己	

令和4年度 教員・研究員の研究・活動 2022. 4. 1~2023. 3. 31

研究業績 2022. 4. 1~2023. 3. 31

掲載誌・出版元 題目・作品名・書名 教員名など 発表年月

運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 教授・兵藤 知 助教)

■審査論文

(一社)交通工学研究会 第42回交通工学研究発表会論文集 COVID-19 感染拡大に伴う交通状態変化が都市内高速道路における交通事故リスクに与えた影響に関する研究 兵頭 知 22年8月

Communications in Transportation Research (2巻) pp.1-14 Estimating freight production/attraction using nighttime satellite imagery Kawasaki, T., Nakanishi, W., Hyodo, S., Namba, Y., Mori, H., Kishi, H 22年12月

■口頭発表

(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会 夜間光データによる地域生活圏レベルの発生・集中貨物量の推計 生本力丸 川崎智也 兵頭 知 Agnivesh Pani 22年11月

(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会 地域鉄道におけるBluetooth LEを用いた利用状況の推定手法に関する研究 三木田龍一 兵頭 知 西脇雅人 轟 朝幸 五味悠一郎 22年11月

(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会 地域鉄道の駅におけるバス路線接続状況の調査—千葉県を対象として— 西脇雅人 轟 朝幸 兵頭 知 23年3月

(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会 米国におけるビジネス航空の運航および利用に関する実態について 筒井悠太 轟 朝幸 熊澤将之 兵頭 知 23年3月

(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会 災害時における基幹空港利用者の人流実態に関する基礎的分析—令和元年台風15号を対象に— 保坂直哉 兵頭 知 轟 朝幸 金子雄一郎 23年3月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

朝日新聞社 AERA.dot 東京駅の新幹線「ホームドア」JR東海にはあるのにJR東日本にないのはなぜ? 実は全く異なる設置基準 (コメント掲載) 轟 朝幸 22年7月22日

(一財)交通経済研究所 運輸と経済 2022年9月号 空港分野におけるカーボンニュートラル, 一歩先へ 轟 朝幸 22年9月

交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 准教授・菊池浩紀 助手)

■著書

勁草書房 日本交通政策研究会研究双書 交通政策の空間的応用一般均衡分析: インフラ・料金・環境政策評価 武藤慎一 河野達仁 福田 敦 22年6月

■審査論文

Cities (127巻) 103753 Dynamic Simulations of Compact City Development to Counter Future Population Decline Hiroki Kikuchi, Guenter Emberger, Haruo Ishida, Atsushi Fukuda, Satoru Kobayakawa 22年8月

2022 Moratuwa Engineering Research Conference (MERCOn), Moratuwa Perceived Walkability Evaluation in Transit Station Catchment Areas in Bangkok Varameth Vichiensan, Atsushi Fukuda, Sathita Malaitam 22年10月

Transport and Communications Bulletin for Asia and the Pacific, No. 92, Environmental Sustainability of Transport Systems, The Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (ESCAP) of United Nations, pp.83-102 GHG Mitigation Policies in Transport Sector for Post COVID-19 Condition based on People's Activity Change Atsushi Fukuda, Noriyasu Tsumita, Rizky Wahyulinata, Hiroki Kikuchi, Sideney Schreiner 22年12月

Case Studies on Transport Policy (11巻) 100951 Utilization of the Information Sharing Road Safety Measure in Developing Countries: Case Study of Suphanburi, Thailand friendly vehicles Hiroki Kikuchi, Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda, Satoru Kobayakawa, Kunimichi Takada, Takeru Miyokawa 23年3月

Asian Transport Studies (9巻) 100097 Urban Railway Network Expansion on Transit Oriented Development: Improvement in Accessibility in Four Asian Developing Cities Noriyasu Tsumita, Hiroki Kikuchi, Varameth Vichiensan, Alexis Fillone, Vu Anh Tuan, Hoang Thuy Linh, Digvijay S. Pawar, Atsushi Fukuda 23年3月

■口頭発表 (公社)土木学会 第65回土木計画学研究発表会 Study on Congestion Pricing Considering Departure Time and Route Choice Behavior in Metro Cebu, Philippines Kaifeng Duan, Tetsuhiro Ishizaka, Atsushi Fukuda, Hiroki Kikuchi 22年6月

(公社)土木学会 第65回土木計画学研究発表会 The 15th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2022 立地適正化計画での縮退エリアにおける住民の転居意向の実態分析に基づいた居住誘導施策の検討 田代大智 菊池浩紀 福田 敦 石坂哲宏 22年6月

The 15th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2022 Comparative Analysis between Net Cost Method and Gross Cost Method—Case Study in Bangkok Blue Line and Purple Line— Kota Iwanami, Atsushi Fukuda 22年8月

The 15th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2022 Analysis of Impact of Spreading COVID-19 Infections on Usage Behavior of E-Commerce for Food Rika Kakishima, Hiroki Kikuchi, Atsushi Fukuda 22年8月

The 15th ATRANS Annual Conference: Young Researcher's Forum 2022 Analysis of Actual Condition of Walking Environment around Urban Railway Stations in Bangkok Shogo Saeki, Noriyasu Tsumita, Varameth Vichiensan, Atsushi Fukuda 22年8月

日本環境共生学会 第25回学術大会 Adaptation Measures for Transportation to Coexist with Urban Flooding in Cagayan de Oro, Philippines Shogo Saeki, Noriyasu Tsumita, Alexis Fillone, Anabel A. Abuzo, Atsushi Fukuda 22年8月

(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会 プローブデータを用いた洪水の発生による旅行速度への影響の把握と浸水深別の旅行速度の関数の推定—タイ・ウボンラチャタニ市を対象として— 宮村幸我 積田典泰 福田 敦 23年3月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等) (公社)日本交通政策研究会 日交研シリーズA-855 市町村間SCGEモデルの開発と財源調達を考慮した道路ネットワーク管理政策評価への適用 武藤慎一 福田 敦 佐々木邦明 石川良文 松岡 斉 上泉俊雄 青木 優 東山洋平 山田 歩 22年7月

SATREPS Handbook of Multimodal Transport for Smart City—Application of Sensing, Networking and Big Data Analysis— Atsushi Fukuda, Hiroki Kikuchi, Tsutomu Tsuboi, Tetsuhiro Ishizaka, Satoshi Takahashi, Daisuke Nishiwaki, Hiroto Seki, Lin Teng, C. Krishna Mohan, Digvijay S. Pawar, K. Naveen Kumar, Chandrasekhar C., Anand Kakarla, Vineel Abhinav G., Pabbathi Uday Kumar, Sai Harsha Yelleni, Prashansa Agrawal, Antony Franklin, Yashasvi Rachakonda 22年9月

(公財)神奈川県地方自治研究センター 自治研かながわ月報 200号 pp.45-51	コンパクトシティの実現と人口減少問題：定量的手法を用いたコンパクトシティの実現可能性の分析	菊池浩紀	23年2月
<b>交通環境研究室</b> (藤井敬宏 教授・伊東英幸 教授)			
<b>■著書</b>			
東京大学出版会	野生動物のロードキル 第16章ロードキルのモニタリングとデータの活用 pp.275-291	【監修】柳川 久 【編】塚田英晴 【編】園田陽一 浅利裕伸 野呂美紗子 佐伯 緑 立脇隆文 山本以智人 内野祐弥 鈴木真理子 玉那覇彰子 亘 悠哉 湊 秋作 豊場葉留果 佐藤 淳 末次優花 浅川満彦 原文宏 伊東英幸	22年12月
<b>■審査論文</b>			
(一社)日本福祉のまちづくり学会 福祉のまちづくり研究 第24巻 pp.37-47	ユニバーサルデザインタクシーを活用した介護タクシーの運用改善策の検討 —千葉県を例として—	福田捷樹 藤井敬宏 伊東英幸	22年9月
Proceedings of 8th International Conference on Structure, Engineering & Environment pp.399-404	SOCIAL COSTS BY OCCURRING ROADKILL OF AMAMI RABBIT IN KAGOSHIMA, JAPAN	Hideyuki Ito, Yosuke Imahashi, Takahiro Fujii	22年11月
<b>■口頭発表</b>			
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第25回全国大会	妊婦および子育て世帯の移動支援を図るデマンド型交通の改善方法の検討	矢嶋太気 藤井敬宏 伊東英幸	22年9月
日本環境共生学会 第25回学術大会	過疎地域における住民主体の送迎システムの導入の可能性に関する研究 —福島県三島町を対象として—	伊東英幸 佐藤令於 大場 真 中村省吾 藤井敬宏	22年9月
いちほら市民大学 (環境コース)	心のバリアフリー 新たな気づきのステージへ	藤井敬宏	22年9月
環境アセスメント学会 第21回大会	自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの挙動分析	笠木一樹 五島真帆 黒田ゆうび 向 真一郎 伊東英幸 藤井敬宏	22年9月
環境アセスメント学会 第21回大会	リニア中央新幹線の環境影響評価に係る住民説明会の参加要因の分析 —山梨県を対象として—	伊東英幸 坂 珠希 藤井敬宏	22年9月
日本環境共生学会 第25回学術大会	過疎地域における住民主体の送迎システム導入の可能性に関する研究 —福島県三島町を対象として—	伊東英幸 佐藤令於 大場 真 中村省吾 藤井敬宏	22年9月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	妊婦および子育て世帯の移動支援を図るデマンド型交通の利用頻度向上の検討	矢嶋太気 藤井敬宏 伊東英幸	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	ゾーントラベルコスト法によるコロナ禍前後のレクリエーション価値の比較分析 —奄美大島を対象として—	土屋大樹 浅見亮佑 伊東英幸 藤井敬宏	23年3月
<b>■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)</b>			
千葉日報	富里市デマンド交通リニューアル 新ロゴマーク投票を 馬やニンジン描いた3案	交通環境研究室	22年12月
株式会社広域高速ネット二九六 296ニュース	富里市デマンド交通のシンボルマークを日本大学理工学部 交通システム工学科の学生が考案	交通環境研究室	22年12月
千葉日報	ニンジンロゴに決定 富里市のデマンド交通	交通環境研究室	23年1月

環境アセスメント学会誌	研究発表セッション報告「市民参加」	辻阪吟子 伊東英幸	23年2月
株式会社広域高速ネット二九六 296ニュース	キャロリン号 (富里市デマンド交通) ロゴマーク・停留所・愛称表彰式	交通環境研究室	23年3月
<b>空間情報研究室</b> (佐田達典 教授・江守 央 准教授)			
<b>■審査論文</b>			
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.13-24	QZSSが提供するセンチメートル級測位補強サービスの天空率を用いた移動測位時の性能評価	山田 真 佐田達典 江守 央	22年8月
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.25-36	MMSによる3次元点群から路肩の変状部を自動検知し可視化する手法の提案	山下翔雅 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央	22年8月
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.75-86	都市部移動体測位におけるVRS方式の信頼性評価と複数衛星系の最適な組み合わせの検証	江守 央 山寺祐太 宮澤 壘 佐田達典	22年8月
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.87-96	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける衛星測位システムの組み合わせに関する研究	田村悠太郎 佐田達典 江守 央	22年8月
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.107-116	RTK測位に使用するGalileoの3種類のE5信号が精度に与える影響に関する研究	入倉 望 佐田達典 江守 央	22年8月
(公社)日本測量協会 応用測量論文集 33巻 pp.117-128	VRSとの比較によるCLASの精度検証	佐田達典 杉山 海 江守 央	22年8月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 79巻 2号	MMSにより計測したトンネル壁面の3次元点群に輪郭抽出手法を適用した損傷部の自動検知	山下翔雅 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央	23年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 79巻 2号	QZSSが提供するセンチメートル級測位補強サービスの都市部街路での性能評価	山田 真 佐田達典 江守 央	23年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集F3 (土木情報学) 79巻 2号	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける遮蔽環境下での複数衛星の併用効果の検証	田村悠太郎 佐田達典 江守 央	23年3月
<b>■口頭発表</b>			
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	タブレット端末とARを用いた橋梁劣化検査システムの提案	宮阪浩平 江守 央 谷口 望 佐田達典	22年9月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	移動測位におけるマルチGNSSの天空率を用いた性能評価	山田 真 佐田達典 江守 央	22年9月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	GNSS測位における街路周辺の建物材質に着目した信号強度の比較検証	大手駿平 佐田達典 江守 央	22年9月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	RTK測位におけるGalileoのE5信号選択とミスFix解発生に関する研究	入倉 望 佐田達典 江守 央	22年9月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	TOF方式とPS方式のレーザスキャナを搭載したMMSによる計測点群データから路面凹部の輪郭を自動抽出した際の形状検知精度比較	山下翔雅 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典	22年9月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	屋内移動空間を対象としたフォトグラメトリにおけるUAVの活用可能性の検討	峰岸 樹 江守 央 佐田達典	22年9月
(公社)土木学会 第47回土木情報学シンポジウム	位相差方式レーザスキャナを搭載したMMSにて計測したトンネルの損傷を自動検知する手法の検討	山下翔雅 山口裕哉 白石宗一郎 岡本直樹 岩上弘明 佐田達典 江守 央	22年9月



(公社)土木学会 第47回土木情報学シンポジウム	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける都市部街路での測位性能評価	山田 真 佐田達典 江守 央	22年9月
(公社)土木学会 第47回土木情報学シンポジウム	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける遮蔽環境下での複数衛星の併用効果の検証	田村悠太郎 佐田達典 江守 央	22年9月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第25回全国大会	SfMを用いた点字ブロックの3次元点群モデル化に撮影時の照度が与える影響評価	中村祐太 江守 央 佐田達典	22年9月
(一社)日本福祉のまちづくり学会 第25回全国大会	UAVとフォトグラメトリを活用した屋内移動空間の3次元モデル作成	峰岸 樹 江守 央 佐田達典	22年9月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	SfMを用いたバリア検出における撮影時の照度が検出精度へ与える影響についての研究	中村祐太 江守 央 佐田達典	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	UAVを用いたフォトグラメトリによる3次元空間計測と3次元バリアフリーマップ実現へ向けた活用可能性の検討	峰岸 樹 江守 央 佐田達典	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	多様性時代のバリアフリー計画	江守 央	22年11月
第66回理工学部学術講演会	街路に面する建物の表面材質に着目した信号強度への影響度の比較検証	大手駿平 佐田達典 江守 央	22年12月
第66回理工学部学術講演会	移動体RTK測位におけるGalileoの3種類のE5信号が測位精度に与える影響に関する研究	入倉 望 佐田達典 江守 央	22年12月
第66回理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスにおける測位中断からの復帰時間に関する研究	金子伊織 佐田達典 江守 央 山田 真 入倉 望	22年12月
第66回理工学部学術講演会	QZSSのセンチメートル級測位補強サービスによる測位解と車線位置の関係	山田 真 佐田達典 江守 央	22年12月
第66回理工学部学術講演会	MMSの走行軌跡を用いたGNSS/IMUに関する研究	田村悠太郎 岡本直樹 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央	22年12月
第66回理工学部学術講演会	MMSを用いたトンネル計測におけるスキャナ設置角度の影響	山下翔雅 岡本直樹 山口裕哉 岩上弘明 佐田達典 江守 央	22年12月
<b>■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）</b>			
(特非)シビルNPO連携プラットフォーム CNCP通信8月号Vol.100, pp.7-8	土木と市民社会をつなぐフォーラムから「土木学会委員会等の活動」キッズPJってなに？	江守 央	22年8月
(一社)日本写真測量学会 写真測量とリモートセンシング2022 60周年記念誌 pp.140-143	測位技術	佐田達典 飯田 洋	22年11月
<b>交通計画研究室</b> (小早川 悟 教授・田部井優也 助手)			
<b>■審査論文</b>			
(公社)日本交通政策研究会 日交研シリーズA-821	附置義務駐車場条例の地域ルールの実態分析	小早川 悟	22年9月
<b>■審査論文</b>			
(一社)交通工学研究会 第42回交通工学研究発表会論文集	無信号横断歩道における車両の譲りに影響を与える道路交通要因に関する分析	吉村暢洋 小早川 悟 田部井優也	22年8月
(一社)交通工学研究会 第42回交通工学研究発表会論文集	駐車場出入口における歩道手前での一時停止遵守率の実態と交通流への影響	田部井優也 小早川 悟	22年8月
Cities (127巻) 103753	Dynamic Simulations of Compact City Development to Counter Future Population Decline	Hiroki Kikuchi, Guenter Emberger, Haruo Ishida, Atsushi Fukuda, Satoru Kobayakawa	22年8月

(一社)交通工学研究会 交通工学論文集	無信号横断歩道における車両の譲りに影響を与える道路交通要因の基礎分析 —東京都中央区新川の無信号横断歩道を対象として—	吉村暢洋 小早川 悟 田部井優也	23年2月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集	駐車場出入口における入庫車両の通行実態と一時停止が交通流へ与える影響に関する分析	田部井優也 小早川 悟	23年2月
Case Studies on Transport Policy (11巻) 100951	Utilization of the Information Sharing Road Safety Measure in Developing Countries: Case Study of Suphanburi, Thailand	Hiroki Kikuchi, Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda, Satoru Kobayakawa, Kunimichi Takada, Takeru Miyokawa	23年3月
<b>■口頭発表</b>			
(公社)日本工学教育協会 工学教育研究講演会講演論文集	地域と連携した交通安全対策を通じた社会還元型教育—交通まちづくり工房の活動を通して—	小早川 悟	22年9月
(公社)日本都市計画学会 都市計画報告集	小規模建築物を含めた地区単位での附置義務駐車施設の整備に関する考察	山本聡志 小早川 悟 田部井優也	22年12月
<b>■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）</b>			
てれQ ふくサテ!	シリーズ危ない通学路・通学路に設置したボールの意味は？	小早川 悟	22年5月
てれQ ふくサテ!	シリーズ危ない通学路・歩車分離の交差点	小早川 悟	22年6月
NHK山口放送局 情報維新やまぐち	山口市の一灯式信号 点滅運転・撤去の理由は	小早川 悟	22年12月
(一社)交通工学研究会 交通工学58巻1号	駐車政策の大転換期 (巻頭言)	小早川 悟	23年1月
<b>道路マネジメント研究室</b> (下川澄雄 教授・吉岡慶祐 助教)			
<b>■審査論文</b>			
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 8巻4号B_18-B_25	実証実験による瓢箪型ラウンドアバウト幾何構造の検討	奥城 洋 吉岡慶祐 石黒雄紀 中根武志 松岡寿章 首藤貴子 張 馨 中村英樹 阿部義典 神戸信人 下川澄雄	22年4月
(公社)土木学会 土木学会論文集D3(土木計画学) 77巻5号I_801-I_809	交差点の信号遅れを考慮した立体交差点が成立可能となる交通条件の分析	真岩優多 下川澄雄 吉岡慶祐 山川英一 藤間翔太	22年5月
(一社)交通工学研究会 第42回交通工学研究発表会論文集	都市間高速道路における対面通行規制時の交通容量に関する基礎分析	山本 隆 上水一路 花田大輝 鶴 元史 中林 悠 下川澄雄	22年8月
(一社)交通工学研究会 交通工学論文集 9巻2号B_48-B_55	都市間高速道路における対面通行規制時の交通容量に関する基礎分析	山本 隆 上水一路 花田大輝 鶴 元史 中林 悠 下川澄雄	23年2月
<b>■口頭発表</b>			
(一社)交通工学研究会 第42回交通工学研究発表会	都市間高速道路における対面通行規制時の交通容量に関する基礎分析	山本 隆 上水一路 花田大輝 鶴 元史 中林 悠 下川澄雄	22年8月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	歩行者・自転車との交錯が生じる信号交差点における左折車の通過確率に関する研究	石井和成 下川澄雄 吉岡慶祐	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	一般道の旅行速度の性能照査に向けた性能曲線の設定に関する研究	柿元祐史 鈴木弘司 下川澄雄 泉 典宏 高橋健一	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	都市間高速道路における対面通行規制時の交通容量変動要因分析	山本 隆 上水一路 花田大輝 鶴 元史 中林 悠 下川澄雄	22年11月

(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	都心部の流入抑制機能を果たすための環状道路の道路構造条件に関する一考察	友廣大成 吉岡慶祐	下川澄雄	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	車道上での並走を想定した走行実験にもとづく電動キックボード・自動車相互の走行評価	内田健人 下川澄雄	吉岡慶祐	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	国内ラウンドアバウト導入状況の経過と立地特性分析	吉岡慶祐 中村英樹 張 馨	奥 城洋 鈴木弘司	22年11月
(公社)土木学会 第66回土木計画学研究発表会	トリップ発着地点に着目した階層型道路ネットワークの考え方の再整理	内海泰輔 浜岡秀勝	喜多秀行 吉岡慶祐	22年11月
第66回理工学部学術講演会	観光道路の信号交差点における飽和交通流率の観測	福田健介 吉岡慶祐	下川澄雄 青山恵里	22年12月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	高速道路の自由流時においてサービスの質を説明する指標の提案	岩崎颯人 下川澄雄	吉村将輝 吉岡慶祐	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	踏切の停止線を通過する車両の車頭時間と飽和交通流率の分析	本間裕洋 吉岡慶祐	下川澄雄	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	走りやすさに着目した環状道路の流入抑制機能を果たすための要因分析	湯田彩月 下川澄雄	友廣大成 吉岡慶祐	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	走行実験による電動キックボード・自動車並走時の走行評価	吉川純平 下川澄雄	吉岡慶祐	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	強化学習を用いた信号現示最適化に関する研究	山崎颯太 吉岡慶祐	桑原雅夫 下川澄雄	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	高速道路リニューアルプロジェクトによる工事規制にともなう交通状態に関する分析	山田純也 吉岡慶祐	下川澄雄 中林 悠	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	ETC機器の生存確率にもとづく最適点検間隔のシミュレーション分析	掛上寛希 吉岡慶祐	桑原雅夫 下川澄雄	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	歩行者と自転車に対する左折車のギャップアクセプタンス挙動の分析	本郷雄大 下川澄雄	石井和成 吉岡慶祐	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	観光道路を対象とした信号交差点の直進車線における飽和交通流率の分析	福田健介 吉岡慶祐	下川澄雄	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	国土数値情報にもとづく環状交差点の立地特性実態分析	竹井 良 下川澄雄	吉岡慶祐	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	大型トラックの走行が高速道路の交通状態に及ぼす影響分析	鳥丸恵雅 下川澄雄	吉村将輝 吉岡慶祐	23年3月

**鉄道構造研究室** (谷口 望 教授・齊藤準平 准教授・関口 穂 助手)

■審査論文

(公社)コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集 44巻2号 pp.55-60	モルタルヒューズのトリガー機構を用いた過大入力地震動に対応した仮橋脚構造の研究	関口 穂 谷口 望	小林 薫 渡部 太郎	22年6月
Advances in Structural Engineering, 25(10) pp.2209-2221	Experimental investigation on steel-concrete composite beams with expansion joints in concrete slab	Weiwei Lin, Nozomu Taniguchi, Takeaki Kubo		22年7月
(公社)コンクリート工学会 コンクリート工学年次論文集 44巻 pp.1336-1341	3次元X線CTと毛細血管造影剤の含侵によるひび割れの検出	齊藤準平 宮部龍洋	長谷川稔記	22年7月
(公社)日本材料学会 コンクリート構造物の補修, 補強, アップグレード論文報告集 22巻 pp.169-174	圧縮応力を継続付与したモルタルの内部空隙状況	齊藤準平 富澤俊介	北田章人	22年10月

(公財)プレストレストコンクリート工学会 第31回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 pp.499-504	プレストレスの損失が塩化物イオンの見掛けの拡散係数に及ぼす影響	齊藤準平 横 一馬	城福和輝	22年10月
(一社)日本鋼構造協会 鋼構造年次論文報告集30巻	CFRP板で補強された下路トラス橋の横桁下フランジの健全性調査	鈴木博之 石川敏之	谷口 望 坂野昌弘	22年11月
(公社)土木学会 土木学会論文集特集号 (応用力学) Vol.79, No.15	ヒューズ機構を有する仮橋脚構造の動的特性に関する研究	関口 穂 谷口 望	小林 薫	23年2月
■口頭発表				
(公社)土木学会 第68回構造工学シンポジウム	圧縮応力の繰返し付与を受けたコンクリート部材の塩分浸透特性	齊藤準平		22年4月
(公社)土木学会 第25回応用力学シンポジウム	ヒューズ機構を有する仮橋脚構造の変形挙動に関する研究	関口 穂 谷口 望	小林 薫	22年5月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	道路橋の近接目視点検結果と地理的条件・気象条件および交通量との関係分析	齊藤準平 鈴木嵩流	菊地 亮	22年9月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	弾性限度を超える圧縮応力が付与されたコンクリートの見掛けの拡散係数	班 鈞豪 松崎大喜	藤田真大 齊藤準平	23年3月
(公社)土木学会 第50回関東支部技術研究発表会	簡易橋梁デザインソフトの力学教育への導入に関する研究	齊藤準平	山本賢吾	23年3月
■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)				
(公社)土木学会	複合構造レポート19 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響—材料と構造の新たな境界問題—		複合構造委員会複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究委員会 (谷口望ほか)	22年8月
株式会社建設図書 橋梁と基礎 2022年8月号	複合構造物の防水・排水技術		土木学会複合構造委員会維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会 (谷口望ほか)	22年8月
株式会社建設図書 橋梁と基礎 2022年11月号	日本鋼橋模型製作コンペティション2022		大垣賀津雄 鈴木森晶 鈴木啓悟 清水 優 谷口 望 竹谷見一	22年11月
(公社)土木学会	2022年制定 鋼・合成構造標準示方書 総則編・構造計画編・設計編		鋼構造委員会鋼・合成構造標準示方書総則・設計編小委員会 (谷口望ほか)	22年12月

**地盤工学研究室** (峯岸邦夫 教授・山中光一 助教)

■審査論文

舗装 57巻4号 pp.9-13	路床材料の強度・変形特性に関する一斉試験	池田 茜 関根悦夫 山中光一	川端伸一郎 木幡行宏 若月洋朗	22年4月
(公社)土木学会 土木学会論文集E1 (舗装工学) 78巻1号 pp.40-51	小型FWDを用いた路床のレジリエントモデュラスの材料定数推定手法の提案	竹内 康 山中光一	川名 太 木幡行宏	22年5月
(公社)土木学会 土木学会論文集C (地圏工学) 78巻3号 pp.225-234	締固め試験における機械式ランマーが土の乾燥密度と剛性評価に与える影響	川端伸一郎 三浦 亨 山中光一	松田圭大 畑山良二 関根悦夫	22年8月
Proceedings of 7th Asian regional conference on Geosynthetics	An experimental and numerical analytic study on thickness reduction effects of geocell-reinforced base course	Tomoya Ito, Kunio Minegishi, Kohichi Yamana		22年10月

(公社)地盤工学会 第63回地盤工学シンポジウム論文集	Mr試験とCBR試験の測定精度が路床上端の圧縮変形に及ぼす影響	山中光一 荒木大空	峯岸邦夫	22年12月
(公社)地盤工学会 第63回地盤工学シンポジウム論文集	発泡ビーズ混入軽量化土の埋設管理戻し材としての有効性に関する検討	荒木大空 山中光一	峯岸邦夫	22年12月
(公社)土木学会 土木学会論文集E1(舗装工学) 78巻2号	路床CBRと弾性係数の関係式に関する検討	池田 茜 竹内 康 関根悦夫	山中光一 川端伸一郎	23年3月
(公社)土木学会 土木学会論文集E1(舗装工学) 78巻2号	ILブロック舗装の敷砂・目地砂として用いた溶融スラグの適用性の検討	山中光一 柳沼宏始	峯岸邦夫 小野敏孝	23年3月
<b>■口頭発表</b>				
(公社)地盤工学会 第57回地盤工学研究発表会	アルカリ活性材料によるシラスの地盤改良	吉澤拓人 山中光一	峯岸邦夫	22年7月
(公社)地盤工学会 第57回地盤工学研究発表会	機械式ランマーが締固め密度に与える影響とその要因	松田圭大 山中光一	川端伸一郎 関根悦夫	22年7月
(公社)土木学会 第27回舗装工学講演会	ILブロック舗装の敷砂・目地砂として用いた溶融スラグの適用性の検討	山中光一 柳沼宏始 河野亜沙子	峯岸邦夫 小野敏孝	22年8月
(公社)土木学会 第27回舗装工学講演会	路床CBRと弾性係数の関係式に関する検討	池田 茜 関根悦夫 山中光一	竹内 康 川端伸一郎	22年8月
(公社)土木学会 第77回年次学術講演会	ブロック舗装の敷砂で実施する細粒化に対する抵抗性試験の測定精度	山中光一 柳沼宏始	峯岸邦夫 河野亜沙子	22年9月
(公社)地盤工学会 第2回交通地盤工学に関する国内シンポジウム	路床土を対象としたレジリエントモデュラスと各試験結果の関係	荒木大空 山中光一 峯岸邦夫	山中光一	22年11月
(公社)地盤工学会 第2回交通地盤工学に関する国内シンポジウム	ブロック系舗装の目地砂に用いる砂と樹脂系固化砂のせん断特性	山中光一 山田和弘	柳沼宏始 峯岸邦夫	22年11月
(公社)地盤工学会 第2回交通地盤工学に関する国内シンポジウム	機械式ランマーの機種の違いが土の乾燥密度と剛性評価に与える影響	川端伸一郎 三浦 亭 関根悦夫	松田圭大 山中光一	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	路床土の変形特性と三軸特性の関係	中嶋悠太 峯岸邦夫	山中光一	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	軟弱地盤対策工法に用いる表面強化不織布の耐久性評価	根岸彪雅 山中光一 柳沼宏始	峯岸邦夫 野呂真一	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	軟弱路床に用いる表面強化不織布の耐久性に及ぼす敷設状態の影響評価	上野智史 山中光一 柳沼宏始	峯岸邦夫 野呂真一	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	短繊維混合補強土の補強効果に及ぼす締固めの影響	荒木大空 山中光一	峯岸邦夫	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	ジオセル工法で用いる支持力算定式の補強路盤への適用性	高井誠人 峯岸邦夫	荒木大空 山中光一	22年11月
(公社)地盤工学会 第19回関東支部発表会 (GeoKanto22)	異なる採取場所における関東ロームの物理特性とCBRの関係	石川雄太郎 山中光一	峯岸邦夫 若月洋朗	22年11月

## 社会的活動

2022. 4. 1～2023. 3. 31

### ■伊東英幸 教授

(公社)土木学会 関東支部企画部会 幹事

環境アセスメント学会 理事

環境アセスメント学会 第21回大会実行委員会 委員

環境アセスメント学会 企画委員会 委員

環境アセスメント学会 企画委員会アセス検定WG (リーダー) 委員

環境アセスメント学会 企画委員会小冊子WG 委員

環境アセスメント学会 学会設立20周年記念事業特別委員会記念誌制作WG 委員

環境アセスメント学会 学術委員会 委員

環境アセスメント学会 生態系研究部会 委員

環境アセスメント学会 若手研究会 委員

日本環境共生学会 理事

日本環境共生学会 表彰委員会 副委員長

日本環境共生学会 学会賞選考委員会 委員

日本システム・ダイナミクス学会 理事(事務局長)

International Journal of GEOMATE (Geotechnique, Construction Materials and Environment), Review Board Member

千葉県 環境審議会 委員

千葉県 自動車排出窒素酸化物総量削減計画等策定協議会 委員

千葉県 自動車排出窒素酸化物総量削減計画等策定協議会 幹事会 委員

山梨県 環境影響評価等技術審議会 委員

山梨県 太陽光条例環境及び景観に及ぼす影響の評価等アドバイザー 委員

千葉市 地域公共交通部会 副部会長

成田市 地域公共交通網形成協議会 委員

成田市 地域公共交通網形成協議会交通事業分科会 会長

柏市 交通政策審議会 委員

柏市 地域公共交通部会 委員

富里市 地域公共交通会議 委員

富里市 地域公共交通計画策定支援業務委託事業者選定委員会 委員

横芝光町 地域公共交通会議 委員

芝山町 地域公共交通会議 委員

芝山町 地域公共交通会議 専門部会 委員

鎌ヶ谷市 緑の基本計画検討委員会 副委員長

名古屋市 なごや生物多様性保全活動協議会 委員

### ■小早川 悟 教授

(公財)国際交通安全学会 英文論文編集委員会 委員

(一社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計 計算ソフト検討小委員会 委員長

(一社)交通工学研究会 日本型道路交通安全監査 委員

(一社)交通工学研究会 駐車場地域ルール検討委員会 委員

日本システム・ダイナミクス学会 副会長

国土交通省都市局 まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会 委員

警察庁科学警察研究所 特別研究員

警視庁交通部 観光バス駐車対策分科会 会長

東京都都市整備局 駐車場条例検討委員会 委員

東京都都市整備局 物流関係者連絡会 会長

千葉県 大規模小売店舗立地審議会 専門委員

港区 駐車場地域ルール策定協議会 会長

中央区 銀座地区交通環境改善協議会 委員

中央区 東京駅前地区駐車場地域ルール運営委員会 副会長

渋谷区 駐輪場配置計画検討会 会長

渋谷区 地域公共交通会議 会長

目黒区 自由が丘駅周辺駐車場地域ルール策定協議会 会長

立川市交通対策課 立川駅ターミナル連絡会 会長

船橋市 交通ビッグデータ見える化協議会 副会長

佐倉市 地域公共交通会議 副会長

松戸市 交通ビッグデータ見える化協議会 会長

鎌ヶ谷市 地域公共交通会議 会長

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会 会長

### ■佐田達典 教授

(公社)日本測量協会 理事

(公社)日本測量協会 電子基準点を利用したリアルタイム測位推進協議会 会長

(公社)日本測量協会 応用測量論文集編集委員会 委員長

(公社)日本測量協会 測量近代化研究会 委員長

(一社)全国土木施工管理技士会連合会 企画運営委員会 委員

(一社)全国土木施工管理技士会連合会 企画事業委員会 委員長

(一財)日本建設情報総合センター 理事

(一財)道路管理センター 評議員

国土交通省国土地理院 測量行政懇談会 副委員長

国土交通省国土地理院 総合評価委員会 委員長  
国土交通省大臣官房技術調査課 建設技術研究開発評価委員会 委員  
国土交通省道路局 道路の地下埋設占用物件の3D データ化等に関する検討会 座長  
国土交通省総合政策局 地域づくり・建設施工等に係る企画競争有識者委員会 委員  
国土交通省関東地方整備局企画部施工企画課 新技術活用評価会議 委員  
国土交通省関東地方整備局関東技術事務所 第16期建設技術展示館審査委員会 委員長  
高精度衛星測位サービス利用促進協議会 アドバイザー

## ■下川澄雄 教授

(公財)国際交通安全学会 日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整理研究会 委員  
(一社)交通工学研究会 技術顧問  
(一社)交通工学研究会 査読委員  
(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会 副委員長  
(一社)交通工学研究会 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ 委員長  
(一社)交通工学研究会 ラウンドアバウトの計画・設計・交通運用に関する研究 委員  
(一社)交通工学研究会 名古屋ガイドウェイバスのバス専用道化検討会 委員  
(一社)日本建設業経営者協会 相談役  
(特非)浜名湖地域舟運都市構想研究所 浜名湖地域舟運都市構想研究所 理事・顧問  
(特非)浜名湖地域舟運都市構想研究所 浜名湖地域舟運都市構想研究会 顧問  
国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所 静岡県災害時交通マネジメント検討会 委員  
静岡県 美しいふじのくにインフラビジョン推進会議 委員  
静岡県 社会資本総合整備計画等評価アドバイザー  
静岡県 ラウンドアバウト検討委員会 委員  
静岡県・浜松市・湖西市 浜名湖地域振興・減災協議会 会長  
  
■轟 朝幸 教授  
(公社)土木学会 土木学会論文集編集委員 D3分冊編集小委員会 委員長  
(公社)土木学会 技術推進機構 技術者教育プログラム審査委員会 委員  
(一社)国土政策研究会 会誌編集委員会 委員  
(一社)交通工学研究会 出版委員会 委員長

国土交通省 交通政策審議会航空分科会技術・安全部会 臨時委員  
国土交通省 交通政策審議会航空分科会事業評価小委員会 委員  
国土交通省航空局 無人航空機の有人地帯における目視外飛行(レベル4)実現に向けた検討小委員会 委員  
国土交通省航空局 空港受入環境高度化支援ウィズコロナ補助金有識者委員会 委員  
国土交通省航空局 空港分野におけるCO<sub>2</sub>削減に関する検討会 委員  
国土交通省航空局 空港技術懇話会 委員  
国土交通省関東運輸局 地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会 委員  
東京都 東京都における地域公共交通の在り方検討会 座長  
千葉県 県土整備公共事業評価審議会 委員長  
千葉県 入札監視委員会 委員長  
千葉県 建設工事総合評価 委員  
千葉県 成田空港を活かした持続可能な地域づくりに係る有識者懇談会 委員  
千葉県 成田空港の離着陸制限(カーフェュー)の弾力的運用に関する検証小委員会 委員長  
沖縄県 下地島空港及び周辺用地の利活用促進事業検討委員会 委員  
葛飾区 都市計画マスタープラン策定委員会 委員  
葛飾区 地域公共交通会議 委員長  
葛飾区 新金線旅客化検討委員会 幹事長  
青梅市 公共交通活性化協議会 委員(議長)  
千葉市 新基本計画審議会 会長  
千葉市 地域公共交通活性化協議会 委員長  
鎌ヶ谷市 建設工事総合評価 委員  
鎌ヶ谷市 企業誘致推進協議会 委員  
松戸市 建設工事総合評価 委員  
松戸市 松戸駅周辺まちづくり委員会 委員  
船橋市 地域公共交通活性化協議会 委員  
富里市 地域公共交通活性化協議会 副会長  
山武市 地域公共交通活性化協議会 副会長  
成田市 地域公共交通網形成協議会 副会長  
木更津市 地域公共交通活性化協議会 会長  
大網白里町 地域公共交通活性化協議会 会長  
八街市 地域公共交通協議会 副会長  
旭市 地域公共交通協議会 委員  
館山市・南房総市 南房総・館山公共交通合同協議会 委員

館山市 地域公共交通会議 委員(議長)  
栄町 公共交通会議 委員  
三郷市 地域公共交通活性化協議会 委員  
八潮市 地域公共交通活性化協議会 会長  
成田空港地域振興連絡協議会 成田空港地域共生・共栄会議 副会長  
成田国際空港株式会社 『新しい成田空港』構想検討会 委員  
成田国際空港株式会社 サステナブルNRT推進協議会 委員  
熊本空港株式会社 第三者モニタリング委員会 委員  
いすみ鉄道株式会社 全国いすみ鉄道支店長制度 日大交通システム工学科支店長

## ■福田 敦 教授

(公社)土木学会 関東支部 幹事  
(公財)国際交通安全学会 顧問  
(一社)交通工学研究会 理事  
(一社)計画・交通研究会 監事  
(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 監事  
(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 認定・事業委員会 委員  
(一社)日本技術者教育認定機構(JABEE) 国際委員会 委員  
(一社)海外運輸協力協会 アドバイザー  
EASTS-Japan 理事  
日本システム・ダイナミクス学会 顧問  
日本環境共生学会 会長・常務理事  
Asia Transportation Research Society, Honorable Advisor  
(独法)国際協力機構 開発途上国における交通安全プロジェクト課題別支援委員会 委員  
(独法)国際協力機構 開発途上国における都市鉄道プロジェクト課題別支援委員会 委員  
(独法)国際協力機構 タイ国「交通安全に関する組織能力および実施能力向上プロジェクト」アドバイザー  
(独法)国際協力機構 タイ国「バンコク首都圏都市鉄道新マスタープラン(M-MAP2)策定能力向上プロジェクト」アドバイザー  
(独法)都市再生機構 バンスー地区日系企業スマートワーキンググループ 委員長  
国土交通省 国際建設関連業務に係る企画競争有識者委員会 委員長  
国土交通省 日本アセアン道路交通安全共同調査 アドバイザー  
千葉市 都市計画審議会 委員  
千葉市 高度地区アドバイザー

千葉市 (仮)都市計画道路 磯辺茂呂町線(園生町)みちづくり協議会 座長  
八千代市 都市計画審議会 委員

## ■藤井敬宏 教授

(公財)日本交通管理技術協会 自転車安全整備技能検定審議会 会長  
国土交通省関東運輸局 千葉県バリアフリーネットワーク会議 座長  
国土交通省中部運輸局 地域交通マネージャー マネージャー  
品川区 庁舎機能検討委員会 副会長  
港区 南青山二丁目公共施設選考委員会 委員長  
港区 バリアフリー基本構想推進協議会 会長  
港区 放置自転車対策業務プロポーザル審査委員会 委員長  
東久留米市 地域公共交通会議 会長  
武蔵村山市 地域公共交通会議 会長  
我孫子市 総合計画審議会 会長  
我孫子市 地域公共交通協議会 委員  
我孫子市 都市計画審議会 会長  
市川市 公共交通協議会バス交通分科会 委員  
市川市 福祉有償運送運営協議会 委員  
市川市 公共交通協議会 会長  
市川市 公共交通調査 専門員  
市川市 総合計画審議会 会長  
市川市 都市計画審議会 副会長  
市原市 バリアフリー推進協議会 会長  
市原市 公共交通地域協議会 アドバイザー  
市原市 総合計画審議会 会長  
市原市 総合評価落札方式による入札評価 委員  
市原市 地域公共交通会議 座長  
市原市 都市再生協議会 委員  
市原市 福祉有償運送運営協議会 委員  
浦安市 福祉有償運送運営協議会 委員  
柏市 交通政策審議会 会長  
柏市 地域公共交通部会 部会長  
君津市 バリアフリー基本構想推進協議会 会長  
君津市 国土強靱化地域計画アクションプラン編策定アドバイザー アドバイザー  
君津市 地域公共交通アドバイザー アドバイザー  
君津市 地域公共交通会議 委員

匝瑛市 地域公共交通会議 委員  
千葉市 バリアフリー推進協議会 会長  
東金市 都市計画審議会 委員  
東金市 総合交通計画策定協議会 委員  
東金市 第3次総合交通計画策定調査支援業務委託事業者評価委員会 委員  
流山市 地域公共交通活性化協議会 副会長  
富津市 地域公共交通会議 委員  
船橋市 地球温暖化協議会 会長  
船橋市 地球環境審議会 委員  
船橋市 地球環境審議会地球環境部会 部会長  
船橋市 都市計画審議会 委員  
茂原市 地域公共交通会議 委員  
八千代市 総合計画審議会 委員  
八千代市 都市計画マスタープラン策定検討委員会 副会長  
八千代市 公共交通会議 副会長  
九十九里町 地域公共交通会議 委員  
伊勢原市 地域公共交通会議 会長  
静岡県 未来創造まちづくり構想会議 委員  
伊豆の国市 地域公共交通会議 委員  
伊東市 伊東駅前広場整備検討委員会 会長  
伊東市 地域公共交通活性化協議会 委員  
下田市 地域公共交通会議 委員  
下田市 地域公共交通計画策定業務委託企画提案審査委員会 委員  
裾野市 総合計画等評価委員会 会長  
裾野市 地域公共交通活性化協議会 委員  
裾野市 都市計画審議会 会長  
富士宮市 地域公共交通会議 委員  
富士宮市 都市計画審議会 会長  
三島市 地域公共交通網形成協議会 委員  
JR久留里線活性化協議会 アドバイザー  
JR久留里線沿線の総合的な交通体系に関する検討会 座長

**■谷口 望 教授**  
(公社)土木学会 複合構造委員会 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響研究小委員会(2期) 幹事(WG長)  
(公社)土木学会 鋼構造委員会 鋼・合成構造標準示方書 総則・設計編小委員会 幹事(WG長)  
(公社)土木学会 複合構造委員会 委員

(公社)土木学会 複合構造委員会 複合構造標準示方書改訂小委員会 委員  
(公社)土木学会 複合構造委員会 土木学会論文集特集号編集小委員会 委員  
(公社)土木学会 応用力学委員会 委員  
(公社)土木学会 応用力学委員会 応用力学論文集編集小委員会 委員  
(公社)土木学会 構造工学委員会 構造工学論文集編集小委員会第7部門 委員  
(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 特別上級土木技術者資格小委員会設計部門 幹事(2023.2より部門主査)  
(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 上級土木技術者資格小委員会設計部門 幹事(2023.2より部門主査)  
(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 1級土木技術者資格小委員会鋼及びコンクリート部門 幹事  
(公社)土木学会 土木技術者資格委員会 2級土木技術者資格小委員会構造WG 主査  
(公社)土木学会 関西支部 安価で確実な鋼橋の長寿命化対策に関する調査研究委員会 委員  
(公社)日本コンクリート工学会 代議員  
鋼橋技術研究会 技術会員  
鋼橋技術研究会 鋼橋の性能設計手法に関する検討部会 部会長  
松戸市 建設工事総合評価委員

**■峯岸邦夫 教授**  
(公社)地盤工学会 TC202 Transportation Geotechnics 国内委員会 委員  
(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ 幹事  
(公社)地盤工学会 関東支部 表彰委員会 委員  
(公社)地盤工学会 関東支部 支部発表会グループ リーダー 幹事  
(公社)地盤工学会 関東支部 副支部長・評議員  
(公社)土木学会 技術者教育プログラム審査委員会 副委員長・幹事  
(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 幹事  
(公社)土木学会 技術功労賞選考委員会 委員長  
(公社)土木学会 表彰委員会 委員  
(一財)日本技術者教育認定機構 基準委員会 委員  
(一財)日本技術者教育認定機構 基準総合調整委員会 委員  
国際ジオシンセティックス学会日本支部 幹事  
国際ジオシンセティックス学会日本支部 新技術委員会 委員長  
国際ジオシンセティックス学会日本支部 行事委員会 委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部 論文集編集委員会 委員  
国際ジオシンセティックス学会日本支部 表彰委員会 副委員長  
国土交通省関東地方整備局東京国道事務所 総合評価審査分科会 委員  
国土交通省関東地方整備局東京外かく環状国道事務所 総合評価審査分科会 委員  
船橋市 一般競争入札【総合評価型】 学識経験者  
千葉市 宅地耐震化推進事業技術学識委員

**■石坂哲宏 准教授**  
(公社)土木学会 関東支部 企画部会 幹事  
(公社)土木学会 国際学術交流基金管理委員会 幹事長  
(公社)土木学会 土木計画学委員会学術小委員会 委員  
(一社)交通工学研究会 JSTE シンポジウム運営小委員会 委員  
(一社)交通工学研究会 事業委員会 委員  
(一社)交通工学研究会 タスクフォース2 委員  
(一社)交通工学研究会 タスクフォース TF-WEBSITE 委員長  
(一社)計画・交通研究会 幹事会 幹事  
(独法)都市再生機構 工事中交通マネジメント研究ワーキング委員会 委員  
日本自動車連盟(JAF) 千葉支部 交通安全実行委員会 委員  
日本システム・ダイナミクス学会 理事  
Eastern Asia Society for Transportation Studies, International Scientific Committee  
久喜市 地域公共交通会議 委員  
松戸市 交通ビッグデータ見える化協議会 副会長

**■江守 央 准教授**  
(公社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 キッズプロジェクト検討小委員会 委員長  
(公社)土木学会 関西支部 バリアフリー計画学研究会 委員  
(一社)日本福祉のまちづくり学会 代議員・理事  
(一社)日本福祉のまちづくり学会 文化財・世界遺産のアクセシビリティ特別研究委員会研究委員会委員  
(一社)日本福祉のまちづくり学会 国際委員会 委員長  
豊島区 バリアフリー推進協議会 副会長  
渋谷区 バリアフリー推進協議会 副会長  
杉並区 バリアフリー推進連絡会 学識経験委員  
新宿区 移動等円滑化促進方針推進協議会 副会長  
大田区 移動円滑化推進協議会 副会長  
三鷹市 バリアフリーのまちづくり推進協議会 副会長

鎌ヶ谷市 福祉有償運送運営協議会 会長  
八千代市 福祉有償運送運営協議会 会長  
横浜市 バリアフリー検討協議会 港北区部会 委員長

**■齊藤準平 准教授**  
(公社)土木学会 関東支部 広報部会 副主査  
(公社)土木学会 関東支部 運営幹事会 幹事  
(公社)土木学会 総務部会 技術功労賞選考委員会 幹事長  
(公社)日本コンクリート工学会 コンクリート工学編集委員会 委員  
鎌ヶ谷市 建設工事総合評価委員

**■兵頭 知 助教**  
(公社)土木学会 総務部門 全国大会第IV部門 委員  
八街市 地域公共交通協議会 委員

**■山中光一 助教**  
(公社)地盤工学会 関東支部 千葉県グループ 幹事  
(公社)地盤工学会 関東支部 支部発表会グループ 県連絡委員  
(公社)地盤工学会 関東支部 会員サービスグループ リーダー 幹事  
(公社)地盤工学会 公益出版部会 部員・出版事業グループ員  
(公社)地盤工学会 TC202 Transportation Geotechnics 国内委員会 幹事  
(公社)土木学会 関東支部 学術研究部会 幹事  
(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会 委員  
(公社)土木学会 舗装工学委員会 舗装材料小委員会路床路盤分科会 幹事  
(公社)土木学会 土木学会論文集 E1分冊編集小委員会 委員  
(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 委員  
(特非)舗装診断研究会 舗装構造評価委員会 委員  
(特非)舗装診断研究会 舗装診断装置検証委員会 小型FWD検証分科会  
ジオシンセティックス学会日本支部 ジオシンセティックス技術情報誌 編集委員会 委員

**■吉岡慶祐 助教**  
(公社)土木学会 未来の土木コンテストグループ グループ員  
(公財)国際交通安全学会 H2220プロジェクト「データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信」 特別研究員  
(公財)国際交通安全学会 H2008プロジェクト「電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究」 特別研究員

- (一社)交通工学研究会 資格委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 編集委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 研究企画小委員会 委員
- (一社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計 計算ソフト検討作業部会 委員
- (一社)交通工学研究会 平面交差の計画・設計・制御の研究グループ 応用編分科会 委員
- (一社)交通工学研究会 平面交差の計画・設計・制御の研究グループ 応用編分科会 WG2 委員
- (一社)交通工学研究会 道路の交通容量とサービスの質に関する研究グループ(HCQSG) 委員兼幹事
- (一社)交通工学研究会 ラウンドアバウトの計画・設計・交通運用に関する研究グループ 委員兼幹事
- (一社)交通工学研究会 タスクフォース WEB 委員会 委員

- (一社)交通工学研究会 タスクフォースデジタル化委員会 委員
- 新宿区 総合自転車対策業務一括委託に係る委託候補者選定委員会 委員

### ■菊池浩紀 助手

- (公社)神奈川県地方自治研究センター 第4次人口減少問題研究会 メンバー
- (公財)国際交通安全学会 海外調査プロジェクト「未来の都市の交通及び安全に係る取り組みの調査研究」 特別研究員
- 日本システム・ダイナミクス学会 理事会 幹事
- 日本環境共生学会 学術・編集委員会 担当幹事
- 日本環境共生学会 学術・研究委員会 委員
- 日本環境共生学会 編集委員会 委員
- 日本環境共生学会 第25回学術大会実行委員会 委員

## 学外学術活動

2022. 4. 1～2023. 3. 31

### ■伊東英幸 教授

- 座長補佐：第21回大会セッション⑥「市民参加」／環境アセスメント学会／東京工業大学大岡山キャンパス 2022.9.3
- 座長：第21回大会セッション⑨「次世代のアセス他(2)」／環境アセスメント学会／東京工業大学大岡山キャンパス 2022.9.3
- 座長：第25回(2022年度)学術大会環境共生各論「生態系」／日本環境共生学会／北とびあ 2022.9.25
- 座長：第50回関東支部技術研究発表会「環境・防災2」／(公社)土木学会／茨城大学日立キャンパス 2023.3.8
- パネリスト：環境アセスメント学会創立20周年記念第2回座談会「環境影響評価法の今後の展開—法改正に向けて—」／環境アセスメント学会若手研究会／日本大学理工学部1号館 2022.12.14

### ■小早川 悟 教授

- 講師：令和4年度道路整備施策研修「物流と道路交通施策」／(一社)全国建設研修センター／全国建設研修センター 2022.6.16
- 講演・パネリスト：The 15th Asian Transportation Research Society Annual Conference／Traffic Safety Countermeasures for Achieving Road Safety in Japan / ATRANS / Chatrium Hotel Riverside Bangkok 2022.8.26
- 講師：令和4年度道路マネジメント研修「物流と道路マネジメント」／国土交通大学校／国土交通大学校 2022.10.19
- 講師：JICA 課題別研修／都市交通総合グループ1「駐車マネジメント」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2022.12.8
- 講師：JICA 課題別研修／都市交通総合グループ2「駐車マネジメント」／(独法)国際協力機構／オンライン開催 2023.2.6

### ■佐田達典 教授

- 講演：測量・地理空間イノベーション大会2022／GNSS 測量の今後」／(公社)日本測量協会／オンライン 2022.6.16

### ■下川澄雄 教授

- 講師：日本の道路整備の現状と課題(幹線道路を「つくる」から「より良くつかう」ために)／(一社)日本建設業経営者協会／(一社)日本建設業経営者協会 2022.7.28
- オーガナイザー：第4回 JSTE シンポジウム「高速道路のリニューアルプロジェクトと交通現象」／(一社)交通工学研究会／札幌市教育文化会館 2022.11.25
- コーディネーター：ラウンドアバウトセミナー「ラウンドアバウトを活かしたまちづくり・地域づくり」／(公財)国際交通安全学会／熊本市国際交流会館 2022.12.8
- 司会：第50回土木学会関東支部技術研究発表会(交通工学・交通計画)／(公社)土木学会／茨城大学 2023.3.8

### ■轟 朝幸 教授

- 講師：航空政策研究会3月月例研究会「災害時の空港運用の実効性を高めるために」／航空政策研究会／慶應義塾大学三田キャンパス 2022.3.14
- 講師：未来の空港・航空システム研究会「災害と空港～災害に空港はどう向き合うべきか?～」／(一財)みなと総合研究所／みなと総合研究所 2022.6.29

### ■福田 敦 教授

- Guest Lecturer：Transportation Economics (ENCV802501) with topic Transportation projects by Official Development Assistance (ODA), Public Private Partnership(PPP), Market Mechanism (CDM, JCM) —Overview, History, Case Studies—／Department of Civil Engineering at the

Universitas Indonesia／Jakarta (On line) 2022.4.27

- 講師：ニカラグア国「交通需要分析(JICA-STRADA)」にかかる2022年度研修セミナー／(独法)国際協力機構／Managua (On line) 2022.7.15, 29

Keynote Presentation：WCTR 2022 Virtual Meet／Urban Transit in the Developing Countries: TOD, Accessibility, and Equity / How will urban railway development with TOD change accessibility of developing cities? / WCTRS & CODATU / On line 2022.7.27

Presentation：SATREPS Workshop / Highlights on Handbook & Dissemination Plan / IITH / Hyderabad (On line) 2022.8.17

Moderator：The 15th Asian Transportation research Society Annual Conference / The main Session 1: Transportation for a Better Life: Resiliency, Sustainability, and Safety in Transportation System / ATRANS / Chatrium Hotel Riverside Bangkok 2022.8.26

Keynote Speech：The 1st Seminar of The JICA Project on Capacity Improvement for Road Traffic Safety Institutions and Implementation in the Kingdom of Thailand / What we can learn from experiences in Japan / (独法)国際協力機構 / Royal Princess Larn Luang Bangkok 2022.9.9

- 講師：JICA 課題別研修 / 都市公共交通「Sustainable Transportation System in Asian cities」 / (独法)国際協力機構 / オンライン 2022.10.25

Moderator：Commemorating the 50th Anniversary of The Club of Rome “The Limits to Growth” Research Society Annual Conference / Roundtable I: Mobility and Mortality Risk Challenges on “Transforming Mobility for Humanity” / The Japanese Association of The Club of Rome and Chulalongkorn University / Chulalongkorn University, Bangkok (On line) 2022.12.14

- 講師：JICA 課題別研修 / 総合都市交通コース1「発展途上国における交通安全対策(タイの都市における事例)」 / (独法)国際協力機構 / オンライン 2022.12.20

Keynote Address：International Conference on Utilization Focus: The Public Space 2022 / Evaluation of Walking Environment around Urban Railway Station in Bangkok Metropolitan Area / 50 Mind Realms, Inc. Philippines & IMRF Institute of Higher Education & Research, India / On line 2022.12.27

Keynote Presentation：3rd EU-ASEAN Road Safety Workshop & Capacity Building / Development of Map of Traffic Accident and Potential Black Spots and Their Utilization for Traffic Safety Countermeasures in Japan and Some Trials in Thailand / European Union / Bangkok (On line) 2023.2.9

- 講師：JICA 課題別研修 / 総合都市交通コース2「発展途上国における交通安全対策(タイの都市における事例)」 / (独法)国際協力機構 / オンライン 2023.2.21

モデレーター・講演：The 4th Experts Group Meeting on ASEAN-Japan Road Traffic Safety Joint Study / 国土交通省 / オンライン 2023.3.8-9

### ■藤井敬宏 教授

- 講演：交通がまちを創る、新たな未来 / 目黒日本大学高等学校 / 目黒日本大学高等学校体育館 2022.6.19

講演：ウーブンシティへ繋ぐモビリティ / 千葉日本大学第一中学校 / 日本大学理工学部船橋校舎1445会議室 2022.7.13

- 講演：現在・過去・未来 都市計画との関わりについて / 裾野市都市計画審議会 / 裾野市役所第4会議室 2022.7.20

講師：シニアの外出を支援する交通手段の確保に向けて / いちはら市民大学環境コース / サンプラザ市原11F 多目的室 2022.9.27

出張講義：未来へ繋ぐ新たなモビリティ / 札幌日本大学高等学校 / 札幌日本大学高等学校講義室 2022.10.5

座談会(司会)：しずおか自動運転 Show CASE プロジェクト関連企画 / 2市1町首長座談会「未来へのアプローチ」 / 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎山田顕義ホール 2022.11.8

座談会(司会)：しずおか自動運転 Show CASE プロジェクト関連企画 / 産官学連携による未来へ繋ぐ地域連携情報ハブ拠点 / 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎山田顕義ホール 2022.11.11

講演：心のバリアフリー—我孫子市での取り組み— / 千葉県運輸支局バリアフリーネットワーク会議 / 国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所会議室 2022.12.3

### ■谷口 望 教授

座長・審査員：第25回応用力学シンポジウム [2E06-10] 第5部門②(口頭講演)E会場 / (公社)土木学会応用力学委員会 / オンライン 2022.5.28

講師：複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する最新動向講習会「収縮に起因すると思われる構造物の損傷事例と対応」 / (公社)土木学会複合構造委員会 / 東京工業大学(ハイブリッド) 2022.9.21

講師：鋼・合成構造標準示方書 総則編・構造計画編・設計編講習会「第15章合成桁」 / (公社)土木学会鋼構造委員会 / オンライン 2022.12.9

### ■石坂哲宏 准教授

司会・講師：IIT Hyderabad Workshop & AMD M2Smart Workshop, Big data analysis in Ahmedabad / M2Smart Project and IIT Hyderabad / Hyderabad and Ahmedabad 2022.8.17, 19

講師：JAF 交通安全実行委員会「幹線道路における交通信号制御」 / 日本自動車連盟 / 日本自動車連盟(JAF)千葉支部 2022.12.21

座談会(登壇)：しずおか自動運転 Show CASE プロジェクト関連企画 / 産官学連携による未来へ繋ぐ地域連携情報ハブ拠点 / 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎山田顕義ホール 2022.11.11

講演：日本大学災害研究ソサイエティ (NUDS) シンポジウム

／豪雨災害での道路閉鎖環境における運転挙動の解明／日本大学会館大講堂 2023.3.22

## ■齊藤準平 准教授

座長：第31回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム／(公社)プレストレストコンクリート工学会／くびきメッセ(松江)(島根県立産業交流会館) 2022.10.21

## ■兵頭 知 助教

副座長：第42回交通工学研究発表会「交通安全(2)」／(一社)交通工学研究会／早稲田大学 2022.8.9

座長：第65回土木計画学研究発表会・春大会「交通安全対策(2)」／(公社)土木学会／オンライン(担当：広島大学) 2022.6.4

## ■山中光一 助教

司会：第2回交通地盤工学に関する国内シンポジウム／(公社)地盤工学会 TC202国内委員会／福岡大学 2022.11.17-18

座長：第19回地盤工学会関東支部発表会「その他」／(公社)地盤工学会関東支部／オンライン 2022.11.24

座長：第50回土木学会関東支部技術研究発表会「施工・管理・調査・計測」／(公社)土木学会関東支部／茨城大学日立キャンパス 2023.3.9

## ■吉岡慶祐 助教

パネリスト：第4回JSTEシンポジウム「ここまで増えた日本のラウンドアバウト～この10年の成長とこれから」／(一社)交通工学研究会／札幌市教育文化会館 2022.11.25

座長：第64回土木計画学研究発表会「ラウンドアバウト：これまでの経験とさらなる成長を目指して」／(公社)土木学会／琉球大学 2022.11.12

講演：International Workshop on Micro-E-Mobility／Evaluation of automobiles and e-scooters when overtaking based on field experiment／IATSS Project 2208C／オンライン 2023.2.28

## ■菊池浩紀 助手

講師：ニカラグア国「交通需要分析(JICA-STRADA)」にかかる2022年度研修セミナー／(独法)国際協力機構／Managua(On line) 2022.7.15, 29

Presentation：SATREPS Workshop／Tentative Estimation of CO<sub>2</sub> Emission Reductions by Multimodal Transport in Ahmedabad／IITH／Hyderabad 2022.8.17

講演：人口減少問題研究会第4次研究会／コンパクトシティと人口減少問題／(公社)神奈川県地方自治研究センター／オンライン 2022.12.12

## 海外出張

2022. 4. 1～2023. 3. 31

教員名	出張期間／出張目的／訪問国
福田 敦 教授	2022年7月30日～8月4日／ATRANS研究プロジェクト打合せ／バンコク(タイ)
	2022年8月20日～31日／15th ATRANS Annual Conference／バンコク(タイ)
	2022年9月4日～12日／The 1st Seminar of The JICA Project on Capacity Improvement for Road Traffic Safety Institutions and Implementation in the Kingdom of Thailand／バンコク(タイ)
	2022年12月16日～19日／ATRANS理事会／パタヤ(タイ)
小早川 悟 教授	2022年12月25日～2023年1月3日／タイ運輸省事務次官表敬訪問／バンコク(タイ)
	2022年8月25日～29日／15th ATRANS Annual Conference／バンコク(タイ)
谷口 望 教授	2023年3月12日～18日／カセサート大学連携バンコクインフラ調査／バンコク(タイ)
石坂哲宏 准教授	2022年8月14日～20日／M2Smartプロジェクトのシンポジウム参加／アーメダバード(インド)
菊池浩紀 助手	2022年8月14日～20日／SATREPS委託研究の最終成果報告／アーメダバード、ハイデラバード(インド)
	2022年8月24日～9月7日／15th ATRANS Annual Conference及びスパンブリにおける交通安全対策の実施箇所視察／バンコク、スパンブリ(タイ)

## 外部研究資金の受入状況

2022. 4. 1～2023. 3. 31

助成金名・委託元など(研究期間)	教員名
日鉱エンジニアリング株式会社(2022.4.1～2023.3.31) 溶融スラグの地盤改良材への適用に関する研究	峯岸邦夫(代表)、山中光一
三井住建道路株式会社(2022.4.1～2023.3.31) 道路地盤に関する研究	峯岸邦夫(代表)
三井住建道路株式会社(2022.4.13～2023.3.31) 道路マネジメントに関する研究	下川澄雄(代表)
三井住建道路株式会社(2022.5.1～2023.3.31) 情報化施工に関する研究	佐田達典(代表)
朝日航洋株式会社(2022.5.1～2023.3.31) MMSの精度検証	佐田達典(代表)
太平洋プレコン工業株式会社(2022.5.9～2023.3.31) ブロック系舗装のスラグ砂に関する研究	峯岸邦夫(代表)、山中光一
太平洋プレコン工業株式会社(2022.5.20～2022.12.31) インターロックングブロック舗装の目地砂・敷砂に関する研究	峯岸邦夫(代表)、山中光一
太陽誘電株式会社(2022.7.1～2023.6.30) 橋梁モニタリング用光変位センサの精度・特性検証	谷口 望(代表)
ENEOSマテリアル株式会社(2022.7.28～2023.3.31) 軟弱路床用強化不織布耐久性評価に関する研究	峯岸邦夫(代表)、山中光一
ENEOSマテリアル株式会社(2022.7.28～2023.3.31) 透水性舗装用フィルター層に用いる強化不織布の必要性能検討	峯岸邦夫(代表)、山中光一
日本交通技術株式会社(2022.9.1～2023.3.31) 鋼鉄道橋に対する斜角の影響検討	谷口 望(代表)
アジア航測株式会社(2022.9.12～2023.3.31) 空間情報技術の生成における高度化および効率化	江守 央(代表)
太陽誘電株式会社・株式会社長大(2022.12.1～2023.6.30) 橋梁モニタリング用光変位センサの精度・特性検証	谷口 望(代表)
株式会社復建エンジニアリング(2022.12.1～2023.11.30) トンネル立坑の設計手法に関する研究	谷口 望(代表)
前田道路株式会社(2023.1.27～2024.3.31) 道路工学および交通工学の研究	齊藤準平(代表)
地域未来研究所(2022.4.1～2023.3.31) 総合的駐車場政策に関する研究	小早川 悟(代表)
国立研究開発法人科学技術振興機構(2022.4.1～2022.9.30) マルチモーダル地域交通状況のセンシング、ネットワークとビッグデータ解析に基づくエネルギー低炭素社会実現を目指した新興国におけるスマートシティの構築	福田 敦(代表)、小早川 悟、石坂哲宏、吉岡慶祐、菊池浩紀
文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(2022.4.1～2025.3.31) 基幹空港のアクセスにおける災害時交通マネジメントの構築	轟 朝幸(代表)、兵頭 知
文部科学省科学研究費 基盤研究(C)(一般)(2021.4.1～2024.3.31) インド・タイの混合交通の錯綜危険性を表現するモデルの実証的検証	石坂哲宏(代表)

- 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (2022.4.1 ~ 2026.3.31)  
 圧縮応力が継続または繰返し作用するコンクリート構造物の塩分浸透予測式の構築 ..... 齊藤準平 (代表)
- 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (2021.4.1 ~ 2024.3.31)  
 立地適性化計画を考慮した駐車配置適性化のための評価方法に関する研究 ..... 小早川 悟 (代表)、田部井優也
- 文部科学省科学研究費 基盤研究 (C) (2019.4.1 ~ 2023.3.31)  
 我が国の道路事業における動物の事故対策とその効果の推計 ..... 伊東英幸 (代表)
- 文部科学省科学研究費 若手研究 (2022.4.1 ~ 2025.3.31)  
 交通信号機の撤去・設置判断に資する無信号交差点の交通容量評価手法の実証的検証 ..... 吉岡慶祐 (代表)
- 文部科学省科学研究費 若手研究 (2022.5.1 ~ 2023.3.31)  
 縮小する都市におけるコンパクトシティの実現に至るための政策評価手法の構築 ..... 菊池浩紀 (代表)
- 文部科学省科学研究費 若手研究 (2020.4.1 ~ 2023.3.31)  
 路床・路盤材の性能評価試験の精度と各関係性に関する基礎的研究 ..... 山中光一 (代表)
- 文部科学省科学研究費 若手研究 (2021.4.1 ~ 2024.3.31)  
 Link & Place 理論に基づく街路分類別交通事故リスク評価法の開発 ..... 兵頭 知 (代表)
- 中小企業経営支援等対策費補助金 (経済産業省) (2022.8.1 ~ 2025.3.31)  
 高速チルトウィング機の高安全性姿勢制御技術開発 ..... 轟 朝幸 (代表)、兵頭 知
- 高速道路調査会研究助成 (2022.4.1 ~ 2023.3.31)  
 床版取り換えに適した鋼-コンクリートずれ止め構造を用いた弾性合成桁に関する研究 ..... 谷口 望 (代表)
- 日本大学理工学部理工学研究所外部資金獲得 (スタートアップ) 支援助成金 (2022.7.1 ~ 2023.3.31)  
 新材料および新計測システムを用いた鋼構造物の騒音振動対策法の提案と評価法の開発 ..... 谷口 望 (代表)

**受賞** 2022. 4. 1~2023. 3. 31

- 賞 (受賞年月) 教員名
- 日本環境共生学会/2021年度日本環境共生学会学術大会口頭発表/優秀発表賞  
 新型コロナウイルス感染症の流行における各国の対策が外出行動及び大気汚染へ与える影響に関する分析 (2022.5) ..... 菊池浩紀
- 環境アセスメント学会/表彰状  
 学会に貢献した功労者として (2022.5) ..... 伊東英幸
- (公社)プレストレストコンクリート工学会/第31回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム/優秀講演賞  
 プレストレストの損失が塩化物イオンの見掛けの拡散係数に及ぼす影響 (2022.10) ..... 齊藤準平

**令和4年度 学生の受賞等** 2022. 4. 1~2023. 3. 31

- 主催者/賞などの内容 (受賞年月) 受賞者氏名 (研究室)
- (公社)土木学会/第49回関東支部技術研究発表会/優秀発表者賞  
 Bluetooth LEを用いた地域鉄道における混雑状況計測手法の検討 (2022.5) ..... 西脇雅人 (運輸交通計画研空室)
- (公社)日本測量協会/令和4年度応用測量論文集論文/奨励賞  
 QZSSが提供するセンチメータ級測位補強サービスの天空率を用いた移動測位時の性能評価 (2022.8) ..... 山田 真 (空間情報研究室)
- 環境アセスメント学会/優秀ポスター賞  
 自動車のヘッドライト点灯によるヤンバルクイナの挙動分析 (2022.9) ..... 笠木一樹 (交通環境研究室)
- (一社)日本鉄鋼連盟/  
 土木鋼構造研究ネットワーク (関東・東北地区) 第1回鋼構造を語る会進化する鋼構造グループワーク/優秀賞  
 40年後の社会と鋼橋の姿 (2022.9) ..... 宮阪浩平 (空間情報研究室)

- (一社)日本福祉のまちづくり学会/第25回全国大会 (高知オンライン)/大会学生奨励賞  
 妊婦および子育て世帯の移動支援を図るデマンド型交通の導入効果について (2022.12) ..... 矢嶋太気 (交通環境研究室)
- 富里市デマンドタクシーのロゴマーク/最優秀賞 (2023.3) ..... 山内悠誠、笠原 綺、後藤梨奈 (交通環境研究室)
- 富里市デマンドタクシーの停留所揭示物/最優秀賞 (2023.3) ..... 山口 慶、池田萌花、勝又由伸、清水敬仁、佐藤航希 (交通環境研究室)

**教室の動き**

教室関連の動きを報告します。

■ 日本大学学生 FD CHAmiT 参加報告

田中颯汰 (3年)

2022年10月16日 (日)に、日本大学学生 FD CHAmiT が開催されました。今回は対面とオンラインから選択できましたが、コロナ禍によりしばらく対面でのイベントの機会がなかったこともあり、対面で参加しました。今年は「あなたにとって、大学とは何ですか?」がテーマで、大学を理想的で満足できるものにするためにはどんな施策が必要であるか、という観点から話し合われました。オンライン授業の期間が長かったことと、2022年4月に新システムである CST-VOICE へ移行したこともあり、私を含む多くの学生 (2年生以上) から、オンライン環境に対する意見が多数出ました。本会議を通して、普段顔を合わせることはない他学部・学科の学生や教員と交流を深めることができ、貴重な経験となりました。また、CHAmiT や日大ワールド・カフェといったグループワーク系イベントの対面開催には、大きな意義があると改めて実感しました。

■ オリエンテーション(学科ソフトボール等大会)開催報告

谷口 望、石坂哲宏、兵頭 知 (3年生担任)

2022年10月22日 (土)、オリエンテーション (学科ソフトボール等大会) を実施しました。1年生向けのオリエンテーションは9月に行ったことから、本会は2~4年生を対象としました。本会は3年から有志の学生が幹事として参加し、2年生と4年生と連携を取りながら企画、運営を



学部提案書		
( 理 工 ) 学部		
①現状の問題点の分析	②学部を「理想の学部」にするための提案	③日大を「理想の大学」にするための提案
・上下関係や友人などの交流が少ない ・課題が多すぎるの難しすぎて終わらない ・課題の提出手段を統一してほしい。 ・voiceが使いにくい ・実験や実習など実習に行われないと理解できない。	・授業の中で、交流の機会などを促進させる ・時間が足りない ・実験や実習など実習に行われないと理解できない。 ・オンラインと対面の併用	グループワークを増やすことで、学生間の交流を促す。また、サークルの活性化や外国より難易度を下げた学修型交流オンラインイベントなどを創設する。 教授の呼びかけで課題を指導する。また、生徒がらの課題の時間をフィードバックをすることで適切な課題量を調整する。 実験の理解度によって国家試験の合格率や授業の満足度・満足度に影響していると思われる。従って、対策が必要な実験/科学実験などは対面で行い、コンピュータ・シミュレーションなどの対面でもできる実験はオンラインで行うなど、仕分けを行う。 先生のシステム理解不足が買られるので、教授陣のセミナー等を開いて理解度を上げてもらう。理解しやすい資料を作り、生徒に配布する。また、緊急時のQ&Aやチャットサービスを実施する。 EX) 希望課とつながり交流したい ・自分の専攻やシラバスを履修するまで、大学内で一定量の科目も履修してほしい。 ・自分の専攻以外履修したい科目が多いので、履修員に対しての指導をしてほしい
EX) 自分達の学部では実技を履修しているが実業としては少ない	EX) もっと実技やグループワークを増やしてほしい	





行った学生主体の行事です。当初はソフトボールだけを予定していましたが、学生からの発案で卓球とバドミントンを加えて行いました。ソフトボールは3年生、4年生が研究室を中心とするチーム、2年生から2チームが参加しました。スポーツをする楽しみに加えて、普段の友人だけではなく、研究室や学年の枠を超えて、笑顔で交流している素敵なひと時でした。

## ■ 就職活動・キャリア形成支援の報告

谷口 望、石坂哲宏、兵頭 知（3年生担任）

2020年度からの新しいカリキュラムでは、学生のキャリア形成を支援する科目「キャリアデザイン」がスタートしました。年間の講義の中で、就職活動だけではなく、就業後の長期のキャリア形成に資するさまざまな取り組みを行いました。主に、本学部キャリア支援センターの講演やOBOGによる企業・業界説明、キャリアアップミーティングなどです。

キャリアアップミーティングは、2022年11月5日（土）に各業界を代表する企業にお勤めのOBOGから、業界の特徴や最新動向をお話いただきました。参加企業・団体は、千葉県、成田空港株式会社、八千代エンジニアリング株式会社、日本交通技術株式会社、株式会社パスコ、日本通運株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、首都高速道路株



式会社、三井住友建設株式会社、株式会社川金コアテックでした。

学生にはそれぞれの業界・企業で興味のあることを見つけるだけでなく、就職活動や就業後に働くことをイメージして、自分自身が今、何をすべきかを見つけることを重点に参加してもらいました。これらをキャリアチャートに整理して記載することで、自分自身で目標設定し、アクションを起こすことができる能力を向上させることを目指しました。目標に向けて一歩一歩、学生の目の輝きが増してきていると、担任として実感しています。

## ■ 令和4年度卒業研究発表会

伊東英幸、峯岸邦夫、山中光一（4年生担任）

令和4年度卒業研究発表会が、2023年2月4日（土）に船橋キャンパス14号館にて開催されました。直近の2年間は新型コロナウイルスの影響により、オンラインにて卒業研究発表会を開催しておりましたが、本年度は3年ぶりに完全対面にて実施致しました。

本年度は、110件（発表者113名）の発表があり、会場には大学院生のほかに3年生、2年生などの他学年に加え、保護者の方や研究にご協力いただいた企業の方々にもご参加いただきました。

発表は1テーマあたり8分、質疑応答4分の合計12分で研究内容の発表をしました。自身が1年間かけて実施した研究を8分という短い時間でまとめて発表しなくてはならず、事前にしっかりと準備をする必要があります。そのため、1年間を通して卒業研究の全体講義や研究室での打ち合わせを実施してきました。

ここ数年は新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの講義が実施されていたため、オンラインとは異なる多数の聴講者の前で発表するということもあり緊張している学生が多く見受けられましたが、講義や打ち合わせで学んだ内容や繰り返し行った発表練習の成果が発揮できていたように感じました。また、大きなトラブルもなく、無事に



進行することができました。

最後に、運営に関わった先生方や発表者・聴講者の皆様にご協力いただきましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

## ■ 令和4年度修士論文審査会

藤井敬宏（大学院担任）

大学院博士前期課程の修士論文審査会を2023年2月22日（水）9時30分より船橋校舎1433教室にてWEB併用型の審査会として開催しました。

発表は10分間にコンパクトにまとめられ、質疑応答も10分と限られていましたが、要点をまとめた回答は、大学院2年間の成長を感じる学術的にもレベルの高い審査会でした。発表者12名全員が審査に合格、3月25日（土）に修士（工学）の学位記が授与されました。修士論文の一覧は本号8ページをご覧ください。

卒業論文作成から修士論文の作成に至る3年間、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡散の影響を受け、研究室への入構も一部規制されたり、保健室が休みの休日には入構そのものができなかったり、これまでの学生とは大きく異なる学習環境でした。そのような中でも、各自、研究に着実に取り組み、学会発表論文数も3.2編/人となり、修士論文の審査基準（学会発表論文2編以上）を超える成果を収めています。

院生たちは、お互いに励まし、協力し、サポートし合い、困難な学習環境を乗り越えて無事に最終審査会を迎えられ、本当によく頑張った研究活動だったと思います。また、この学年の院生には、学部の新カリキュラムへの移行対応にあたり、新科目の対応を含めTA（Teaching Asiana）として丁寧な学部生サポートをお願いし、それに応えてくれました。担任として深く感謝しています。

そんな頼もしい交通システム工学専攻の修士生12名の今後の大いなる活躍を心より願っています。



## ■ 交通まちづくり工房活動報告

兵頭 知

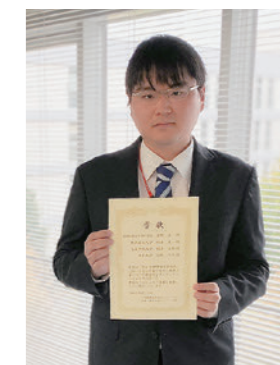
今年は徐々に、実フィールドでの活動も可能となり、各プロジェクトの所属学生は精力的に実践的なプロジェクト活動に取り組んでくれました。また、本年度も引き続き、全体活動のまとめとして、第3回「交通まちづくり工房サミット」を企画し、2023年2月6日（月）に『交通まちづくりと社会還元』というテーマで開催しました。サミットでは、1年生から3年生まで多くの学生が参加し、本年度の各プロジェクト活動報告に対して、参加者同士で議論しました。いずれのプロジェクトも、それぞれの活動ならではの社会還元の形を達成できたのではないかと思います。



## ■ 受賞報告

日本鉄鋼連盟土木鋼構造研究ネットワーク（関東・東北地区）のグループワークにて「学生ワークショップグループ発表優秀賞」を受賞

2022年9月20日（火）に日本鉄鋼連盟土木鋼構造研究ネットワーク（関東・東北地区）の第1回鋼構造を語る会



—進化する鋼構造—グループワーク：「40年後の社会と鋼橋の姿」にて、交通システム工学専攻博士前期課程2年生の宮阪浩平さんが学生ワークショップグループ発表優秀賞を受賞しました。

**土木学会第77回年次学術講演会にて「優秀講演者賞」を受賞**



山中光一助教が、公益社団法人土木学会主催の第77回年次学術講演会において、優秀講演者に選ばれました。対象の発表は、「ブロック舗装の敷砂で実施する細粒化に対する抵抗性試験の測定精度」です。当該論文は、ブロック舗装で用いる敷砂の品質を判断するために実施する細粒化に

対する抵抗性試験の測定精度を明らかにし、その試験方法の問題点と解決策について示した研究です。

**第31回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウムにて「優秀講演賞」を受賞**



齊藤準平准教授が、2022年10月20日（木）、21日（金）に開催されたプレストレストコンクリート工学会「第31回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」（「くにびきメッセ（鳥根県立産業交流会館）」）において優秀講演賞を受賞しました。論文題目は「プレストレス

の損失が塩化物イオンの見掛けの拡散係数に及ぼす影響」です。なお、本研究の一部は文科省科研費（基盤研究C）「圧縮応力が継続または繰返し作用するコンクリート構造物の塩分浸透予測式の構築（研究代表者：齊藤準平）」による助成によって行われました。実験は、2021年卒業研究の榎一馬君、城福和輝君の熱心な取り組みによって行われました。ここに付記し、謝意を表します。



**第25回日本福祉のまちづくり学会全国大会にて「学生奨励賞」を受賞**

2022年9月1日（木）～2日（金）に第25回日本福祉のまちづくり学会全国大会がオンラインで開催され、交通環

境研究室博士前期課程2年生の矢嶋太気さんが2022年12月20日（火）に学生奨励賞を受賞しました。口頭発表のタイトルは「妊婦および子育て世帯の移動支援を図るデマンド型交通の導入効果について」で、東京都東久留米市におけるデマンド交通「くるぶー」の妊婦・0～3歳児・高齢者の利用実態を明らかにし、今後の継続的な運行を図るための改善方策について検討した研究を発表しました。

**伊東英幸教授が「野生動物のロードキル」(共著)を出版**

本学科の伊東英幸教授が共著で執筆した『野生動物のロードキル』が2023年1月6日（金）に東京大学出版会より出版されました。本書は、国内外で深刻な問題となっている道路上で自動車などに轢かれて死亡する「ロードキル」の問題について取り上げ、さまざまな生物種のロードキルの現状や今後のロードキル対策などについて幅広く網羅した内容となっています。伊東英幸教授は、第16章「ロードキルのモニタリングとデータの活用」を執筆し、世界各国のロードキルのデータベースや交通事故データの活用例について解説されています。



柳川 久 監修  
塚田英晴・園田陽一 編  
伊東英幸 ほか 著

**事務局からのお知らせ**

一日一日と暖かくなり始め春の日差しが心地よく感じられる季節となりました。新入生は新生活への期待と緊張と複雑な心境でしょうか。また、在校生は新学年に向けて意欲を燃やしているでしょうか。

さて、事務室では皆さんの学生生活のサポートを行っており、就職・進学・その他の資料も閲覧できるようになっております。また、公務員志望の方のために、参考書や問題集の貸し出しもしています。ぜひ活用してください。

**事務室案内**

事務取扱時間	月曜日～金曜日	9：30～13：00、14：00～16：00
場 所	7号館2階7214室	
	※入り口は2カ所ありますが、向かって右側が学生専用出入口です。必ず交通システム工学科の赤いストラップを身につけて来てください。	

令和4年度 **就職状況**

4年生担任 伊東英幸、峯岸邦夫、山中光一

令和4年度の学部卒業見込み者は119名、大学院の博士前期課程修了予定者は12名、合計131名に対して、就職を希望しない学生（学部7名、大学院2名）を除くと、ほとんどの学生の進路が決定しました。

本年度の就職活動は、例年と比べて本格的に開始する時期が早まっており、内々定が出される時期も例年より早い傾向となりました。また、コロナ禍においても、前年度はオンラインによる選考が主でしたが、本年度は多くの企業で対面による選考面接が実施されていました。

内定状況は、選考が早まったこともあり、就職活動前半で半数の学生に内々定が多く出ている状況でした。業種別にみても、「建設業」が26%、「複合サービス業」が17%、「運輸業」が15%と上位を占めている状況でありおおむね例年通りの結果となりました。また、昨年と比較して高速道路会社や建設コンサルタントを含む「複合サービス業」が減少したものの、運輸業と公務員は昨年（運輸業11%、公務員7%）と比較して若干ではありますが増加傾向を示しました。

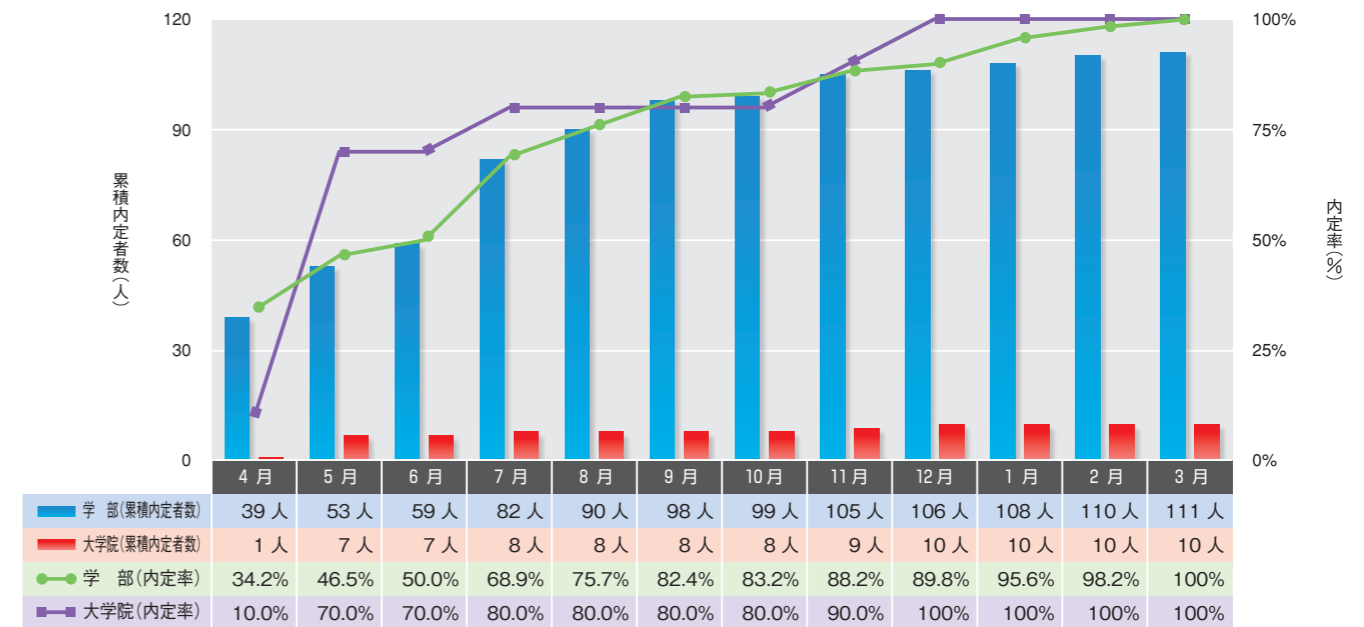


図-1 学部・大学院の内定者の推移

**就職先業種別内定人数**

内 定 先 業 種	大学院(人)	学 部(人)
建設業	1	31
運輸業	1	18
国家公務員(含む独法)	0	3
地方公務員	1	12
大学院・進学・研究生	1	15
情報サービス業	0	1
複合サービス業	5	20
一般機械製造業	0	1
学校教育	0	0
通信業	0	2
その他	1	8
希望しない	2	8
合 計	12	119

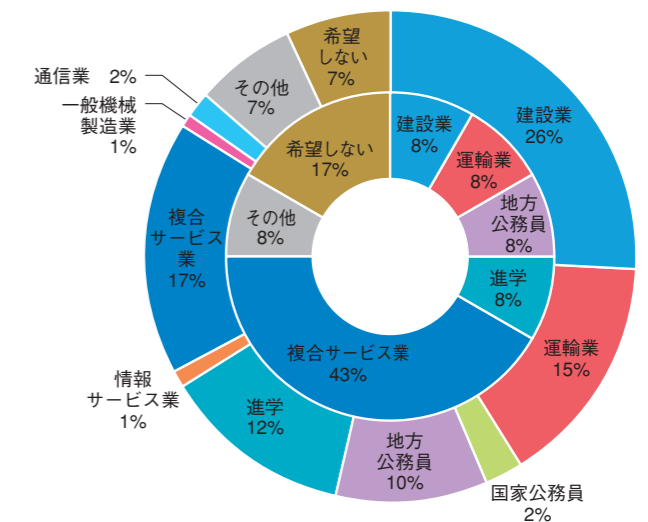


図-2 就職先業種別割合(内：大学院、外：学部)



## 空・宙の 交通イノベーション —交通システム工学 の視点から—

轟 朝幸  
教授

2025年に開催される大阪・関西万博において、空飛ぶクルマを実現させるべく官民挙げて取り組んでいます。さらに「空の移動革命に向けたロードマップ」では、この万博をきっかけに全国各地に展開する見通しが示されています。また、宇宙旅行も、わが国の旅行ツアー会社などが予約受付を開始して話題になっています。

これらの実現化が見えてきたのは、空クルやスペースシップ（宇宙機）の機体開発が急速に進んできたことが大きな背景です。一方で、離着陸場や運航ルールの整備などの交通システム工学的な検討も急ぐ必要があります。私の研究室（運輸交通研究研究室）でも、空クルの一種である中長距離対応の高速VTOL機（写真）の需要ニーズ調査、スペースポート（宇宙港）に関する未来型の研究をしています。それらを通じてわかった、空



画像提供：スカイリンクテクノロジー株式会社

クルや宇宙旅行の実現するために必要な点を交通システム工学的な視点から論じてみます。

### ① 空・宙の交通イノベーションを支えるインフラ整備

空クルの運航には、離着陸ターミナル「パーティポート」が必要です。つまり旅客が乗り降りする空港のようなものですが、現在の大規模な空港施設は不要で、ヘリポートの高度化と考えるのがよいでしょう。ビルの上や公園の一角などが候補です。それらの配置は、空クルの一番のメリットである移動時間の短縮を実現するために都市施設などの分布に十分配慮し、パーティポートへのアクセス交通ネットワークも重要です。

スペースシップの離着陸は、大規模な施設が不可欠です。スペースシップには、垂直に打ち上げられるロケット型と水平に離陸する航空機型があります。ロケットは重力加速度Gによる旅客負担が大きいので、一般人に普及するには水平型が適していると思われます。その場合には既存空港を活用できますが、航空機運航とどのように共用するかが課題です。

### ② 機体が飛び交うための交通管理

空クルが安全に飛行するためには、とくにパーティポート周辺の安全管理が不可欠です。大都市には超高層ビルが建ち並び、郊外には鉄塔や高圧電線が張り巡っていて、それら障害物や航空機同士の錯綜を避けるための航空管制ルールの制定が求められます。また、機体が頭上を飛び交うことに対し、安全性や騒音、上空からの覗き見のようなプラ

イバシーに対する不安が市民にひろがる可能性があります。これらに関わる社会的受容性には十分な配慮が不可欠です。

宇宙でも、デブリといわれる宇宙ゴミが問題となっており、それらとの衝突も含め宇宙空間の交通管制がいずれ必要になるでしょう。

### ③ 航空文化の醸成

わが国では、ヘリや小型航空機を見かけることはそんなに多くありませんが、一方でアメリカなどでは身近な乗り物です。ビジネスジェット機の登録数（2020年）は、日本の59機に対してアメリカは21,888機と約370倍です。つまり、空を交通空間として日常的に使っているアメリカでは空クルの普及は容易ですが、ほとんど利用されていない日本では極めてハードルが高いと思っています。運用上の違いにとどまらず、ビジネスジェットは超富裕層が使うものという日本での価値観はアメリカではありません。若者グループが旅行で利用する姿が見られ、技術者や営業マンが現場を駆け巡るのにも一般的に使われています。時間価値を重視し、費用より利便性を重視している結果です。このような航空に関する認識や価値観の変容を促すことも、空クルなどの普及に欠かせないポイントです。

空クルや宇宙旅行などSF映画や未来アニメに描かれてきたものが夢物語ではなくなりつつあります。私は船橋キャンパスと駿河台キャンパスを高頻度に移動していますが、近い将来、空クルを使って短時間で移動できることを願っています。

## 編集後記

コロナ禍前には考えられないほどオンラインやオンデマンドシステムが構築されました。そして、年齢に関係なく多くの方が使いこなせるようになりました。上手に活用すると移動時間が不要となり時間を有意義に使えますし、便利なツールです。

ここに来て新型コロナ5類移行に伴いさまざまな会議や学会が対面でもオンラインでもどちらでも良いというようになってきました。コロナ前には対面のみだったのですが、今では会議室や学会へ移動するのが面倒に感じるのは私だけでしょうか。「効率だけ追い求めていると、対面時の血の通った会話や意思疎通などのコミュニケーションの良さを忘れてしまうよ！」と言われないように、できるだけ対面に参加するように心掛けているこの頃です。（齊藤）

ブリテン61号（年報号）の発行にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。年報号は各教員・研究室の1年間の研究活動・社会活動等を取りまとめ、皆様に知っていただくことを目的として作成しています。それと同時に、われわれ教員にとっても1年間活

動を客観的に振り返る良い機会になっています。また、前半では新年度の研究室体制を紹介しています。これから研究室に配属となる在学生の皆さんには、研究室の活動をよく知り、研究室選択をするための資料としても使っていただきたいと思います。今年度も交通ブリテンをよろしくお祈りします。（吉岡）

3月13日より新型コロナ対策としてのマスクの着用ルールが変わり、「着用は個人の判断に委ねることを基本」となりました。大学では多くの人々が集まり、授業や研究、交流が行われているため、大学におけるマスク着用義務は感染拡大防止にとって非常に重要な役割を果たしてきました。一方、マスク着用によって、コミュニケーションが円滑にいかない、息苦しい、顔の表情が伝わりにくくなる、といったデメリットもありました。そのため、この着用ルール変更により、自分自身や周りの人々を守るための行動を取ることを前提としますが、徐々にこれまでの“表情の見える”コミュニケーションの形が戻っていくことを期待しています。（兵頭）